1—991

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正元年十一月十五日發行
（毎月一回十五日發行）

廓清

第二巻第十一號

主張　社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

東京 廓清會本部 發行

會員の義務

一成るべく同志を糾合して會員の增加を圖ること。

一輿論の勢力を作るには同志の一人にても多からんを要す。

一不用の雜誌は可成知人の間に廻付して主張の徹底を計ること。

右會員諸君が、自らのデユーチーとして御實行あらむことを希望す。

出版書目

歐米諸國 **醜業公認制度廢止運動**

定價一冊 貳拾錢 郵稅貳錢

右は先般本邦に來援せられたるモーリスグレゴリー氏の著書を飜譯せしものにして、安部磯雄氏の嚴密なる校閲を經たるものなり。自己の研鑽の爲め將又主張貫徹の爲め、最も有力なる武器なり。奮つて購讀あれ。

廓清叢書第一卷 **公娼廢止論** 伯爵 大隈重信述

廓清叢書第二卷 **此罹災者を救へ** 廓清會理事 益富政助述

廓清叢書第三卷 **道樂者への强異見** 救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第四卷 **自由廢業を奬勵する理由** 救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第五卷 **廓清會組織の趣意** 廓清會長 島田三郎述

廓清叢書第六卷 **公娼制度と社會の風儀** 廓清會副會長 安部磯雄述

定價一冊各貳錢 郵稅六冊迄貳錢

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓清會本部
宛に願上候

會費の納入

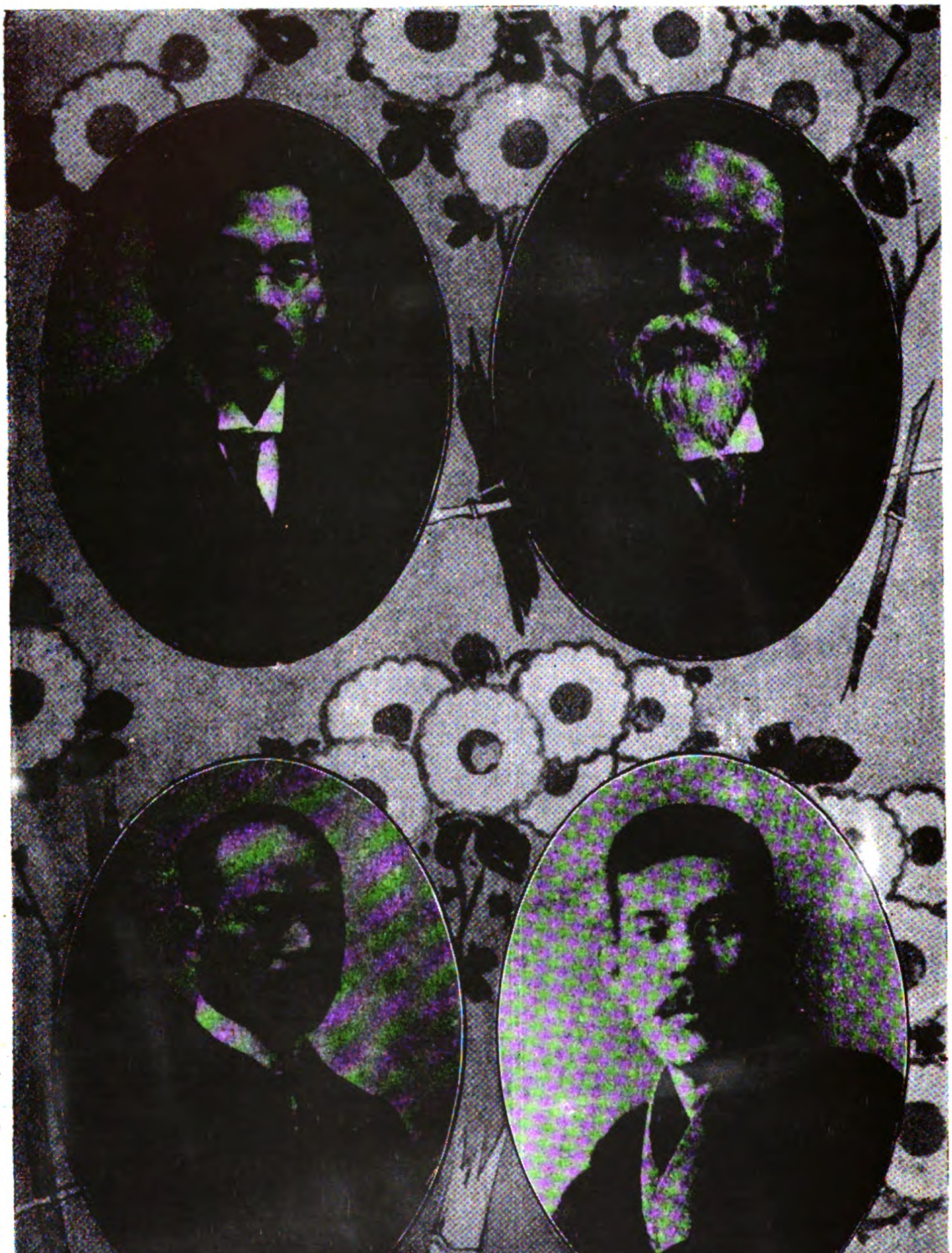
會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名義にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

大正元年十一月十五日納本 一部定價金六錢
大正元年十一月十五日發行（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人 神田區三河町一丁目十四番地 益富政助
印刷人 神田區三河町一丁目十四番地 小林照雄
印刷所 神田區三河町一丁目十四番地 丸利印刷所
發行所 神奈川縣川崎町砂子百三番地 廓清發行所

廢娼論家肖像（其一）



森村銀行頭取 森村市左衛門氏

文學士 三輪田元道氏

成女高等女學校長 宮田脩氏

東京基督教青年會主事 山本邦之助氏

（順序不同）

廓清會會則

第一條　本會ハ廓清會ト稱ス

第二條　本會ハ本部ヲ東京市神田區美土代町三丁目三番地東京基督教青年會館內ニ置キ、追テ支部ヲ各地ニ置ク

第三條　本會ノ目的ハ公娼制度ヲ廢止シ推シテ男女間ニ貞潔ノ風操ヲ進ムルニアリ

第四條　本會ハ其目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ爲ス

(一)每月一回「廓清」ト題スル雜誌ヲ發行スルコト
(二)時々適當ノ出版ヲナスコト
(三)公開演說會ヲ開催スルコト
(四)帝國議會ニ公娼廢止ノ請願ヲナスコト
(五)當局官廳ニ公娼廢止ノ建白ヲナスコト
(六)公娼廢止ノ善後策ヲ攻究スルコト
(七)娼妓其他醜業婦ノ救濟

第五條　本會ニ調査部ヲ設ケ左ノ事項ヲ調査研究ス

(一)公娼ニ對スル現代思想ノ研究
(二)遊廓其他花柳界ノ調査
(イ)婦女誘拐及ビ誘拐者
(ロ)醜業婦口入業者
(ハ)貸座敷業者及ビ其雇人
(ニ)娼妓ノ出身現狀及ビ成行
(三)公娼制度ト法規トノ關係調査
(四)公娼制度ト衞生トノ關係調査
(五)公娼制度ト風紀トノ關係調査
(六)公娼制度ト教育トノ關係調査
(七)公娼制度ト經濟トノ關係調査
(八)公娼制度ト公權トノ關係調査
(九)外國人タル醜業婦ノ狀態調査
(十)外國ニ於ケル日本醜業婦ノ調査
(十一)內外醜業婦ノ沿革調査
(十二)藝妓酌婦其他類似ノ營業者ニ關スル調査
(十三)蓄妾、私通、姦通、離婚等ニ關スル調査
(十四)婦人問題、貞操問題ニ對スル現代思想ノ研究

第六條　本會ハ本會ノ趣旨ヲ贊成スル男女ヲ以テ組織ス

第七條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

役員ハ總會ニ於テ之ヲ選擧ス

會長　壹名
副會長　名
理事　五名
會計　壹名
書記　若干名

第八條　會長ハ會務ヲ統理シ、副會長ハ會長ヲ輔佐シ且ツ必要ノ場合ハ之ガ代理ヲナス

理事ハ本會ノ實務ヲ執リ、會計ハ本會ノ會計ヲ掌ル、書記ハ本會ノ記錄及雜誌編輯ノ事務ヲ擔任ス

第九條　本會ニ調査委員若干名ヲ置キ第五條ノ調査ヲナス、委員ハ會長之ヲ推薦ス

第十條　本會ニ評議員若干名ヲ置ク

評議員ハ總會ニ於テ之ヲ推薦シ、本會ニ對シテ必要ナル助力ヲ與フ

第十一條　本會ニ顧問ヲ置ク

顧問ハ總會ニ於テ之ヲ推薦ス

第十二條　本會ニ入會セント欲スル者ハ原籍、現住所、職業氏名、年齡及、會員ノ種類ヲ記シ本部ニ申込ムベシ

第十三條　會員ヲ分ッテ贊助會員、正會員ノ二トス

贊助會員トハ本會ノ維持費トシテ每月一口(廿五錢)以上ヲ出資スルモノニシテ、正會員トハ每月金五錢ノ會費ヲ納ムルモノトス

第十四條　會員ニハ機關雜誌「廓清」ヲ每號無代配布ス

第十五條　總會ハ每年五月之ヲ開キ事務報告其他會務ヲ議ス但シ必要ノ場合ハ臨時總會ヲ開ク事アルベシ

廓清會役員名簿

本部役員

顧問	大隈重信
會長	島田三郎
副會長	矢島楫子
同	安部磯雄
會計	山本邦之助
常務理事	益富政助
理事	內ケ崎作三郎
同	矢吹幸太郎
同	山田彌十郎
同	小松武治
同	小崎千代子
同	島貫兵太夫
評議員	井深花子
同	服部綾雄
同	林歌子
同	羽仁もと子
同	本多貞子
同	德富久子
同	十時菊子
同	富永のぶ子
同	戸川秀子
同	大關和子
同	渡邊鎌子
同	渡邊つね子
同	嘉悅孝子
同	高崎介藏
同	瀧本みつゑ子
同	武田淑子
同	綱島佳吉
同	根本正
同	名出昱子
同	植村正久
同	浮田和民
同	小田川優子
同	山室軍平
同	山室機惠子
同	松村介石
同	福永文之助
同	福島四郎
同	小崎弘道
同	江原素六

評議員　寺尾愛子
同　安藤太郎
同　栗屋榮子
同　齋藤壽雄
同　山東泰子
同　城戸順子
同　湯淺治郎
同　湯淺とき子
同　三輪田元道
同　三並良
同　宮田脩
同　島田信子
同　清水ふき子
同　清水たね子
同　日向輝武
同　日向きむ子
同　平岩愃保
同　元田作之進
同　角倉賀道
同　杉浦のぶ子

群馬支部役員

委員長　德江友之助
常任委員　田村作太郎
同　高橋駒次郎
同　松宮彌平
委員　牛田兵次郎
同　星野きよ子
同　ペットレー
同　戸谷清一郎
同　千木良芳郎
同　大越鉉吉
同　岡部なを子
同　太田九之八
同　大澤虎雄

大阪支部役員

委員長　長田時行
常任委員　林歌子
同　加藤直士
同　名出昱子
同　佐島啓助
同　清水種子
委員　石神八重子
同　今井信子
同　井口昌藏
同　井上はぎの子
同　蜂須豊一郎
同　大戸きし子
同　柏木かや子
同　金澤なを子
同　高橋松太郎
同　中村清次郎
同　中島佐久馬
同　野口せい子
同　桑島定助子
同　栗原德治子
同　熊谷せつ子
同　大和重太郎
同　山田しん子
同　松田榮治
同　正田虎四郎
同　阿部仙太郎
同　荒清記
同　齋藤壽雄
同　宮前右太郎
同　柴田とよ子
同　森川抱次
同　森村堯太
同　住谷天來
同　早川みぶよ子
同　馬場鉎作
同　二宮わさ子
同　堀峯橘
同　オルチン
同　緒方吉重子
同　大塚常子
同　緒方鉎次郎
同　加古幸惠子
同　桂よね子
同　河原鈗三郎
同　吉本顯子
同　吉岡哲夫
同　高木貞衛
同　武田龜吉
同　田口たけ子
同　谷口こう子
同　辻よね子
同　並川つる子
同　名出保太郎
同　中村三郎
同　山口陽子
同　山田祐
同　安來忠次郎
同　松岡歸之
同　藤仲民子
同　深田直太郎
同　小泉澄
同　淺井泰子
同　青木庄藏
同　佐瀬うの子
同　菊池しな子
同　湯淺豊太郎
同　三浦さき子
同　宮川經輝
同　清水芳吉
同　瀬川うめ子
同　杉田磯子

京都支部役員

常任委員　井上源三郎
同　小澤行善
委員　石黑猛次郎
同　原田助
同　堀内徹
同　富森幽香子
同　尾崎保
同　尾崎夫人
同　中村榮助
同　山崎英泉
同　松浦有志太郎
同　牧野虎次
同　デントン夫人
同　荒木虎之助
同　佐伯理一郎
同　同夫人
同　湯淺とき子

靜岡支部役員

委員長　原崎源作
副委員長　尾崎元治郎
會計　豊島英敏
書記　田中鉦太郎

（いろ　順）

會說

廓清時言

當局者の應答を促す

京都帝國大學教授、醫科大學皮膚黴毒科長、醫學博士松浦有志太郎先生は、社會衞生の立場より曰へば、毫も公娼の必要を認めずと宣言し、且今日の檢黴制度を以て、病毒の傳播を防がんとするの愚なるは、恰かも一瓶の昇汞水を、太平洋に投じ、以て太平洋を消毒し了らんとするの愚なるが如しと曰へり。此專門の智識あり、地位あり、責任ある博士の此の言明は、今の內務省衞生局を始め、警視廳其他の檢黴制度維持論者に對する一大痛棒にあらずや。又一種の挑戰狀にあらずや。而かも此挑戰狀に對して、一人のよく應戰し得るものなきは何ぞ。敢て當局者の存意を問ふ。

博士また此頃記者に左の和歌を贈らる。謹んで之を當局者に奉つる。

存娼論者に與ふる歌

松浦有志太郎

論者は言ふ、此の賤業は好ましからざる罪惡にはあれど、往昔より存在し、之を禁ずるも止む事なければ、寧ろ之を公許するに如かずと。是れ盜賊の盡きざるを以て寧ろ之を公許せよ、病の絕ゆる事なきを見て寧ろ醫藥の道を廢せよと云ふに同じからずや。

いくたびか道つくりても雨風の
　またこぼつとて道をすてんや

病人の數はこの世につきずとて
　くすしの道を棄てゝおくべき

いつの世も罪人の種は盡きじとて
　國の掟をたゞさでやおく

エリオット博士の廓清意見

我國の敎育制度に對するエリオット博士の忠言は、今や著しく社會の注意を喚起しつゝあり。博士の識見に爾く大なる尊敬を拂ふ我國民の上下は、又博士が左の忠言に耳を傾くるの要なきか。劃一主義敎育制度の打破よりも、尙大にして且つ根本的なる問題は、實に道德思想廓清の問題なるべき事を知らざるか。

博士曰く、日本の急務は、婦人の位置を高むると同時に、貞潔をひとり女子の問題とせずして、男子にも要求する事にあり。風敎問題の根底は一夫一婦の道德にあり。此點を改む

るにあらざれば、恐らく國民道德の振興を期し難からん。基督は嬰兒を祝し、カナの婚筵を祝し、夫婦の神聖なる愛を祝し、以て家庭道德の根本義を樹立したり。歐米の基督教國にも幾多の不德行はる。しかも一夫一婦の道德だけはたしかに西洋諸君に勝れり。思ふにこれ東洋には祖先崇拜の風行はれし結果にして、蓄妾の弊は此口實の上に今尚ほ行はる。日本の民法は妾腹の子又は私生兒を庶子として入籍するを許すと聞く。是れ道德上大いなる欠點なりと信ず。正當なる妻の子以外は、一切之を私生兒として取扱ふは基督教國の法律なり。日本の風教問題を解決するには、一方に於て基督教の一夫一婦の倫理を鼓吹すると共に、男子の貞潔を進むる爲めに必要なる法律の改正をも努めざるべからず、是れ余が忌憚なき觀察なり。

本誌は當局者を警醒せんが爲各國務大臣、內務省、警視廳、各府縣知事、警察部及遊廓所在地の各警察署に宛て每號數百部を寄贈す

醜業者町長の辭職

貸座敷業を營める關田某なる者が、府下府中町に於て町長に當選したりといふ風教上の一大問題に對して、同町聖馬可教會執事志賀淸光氏は、奮然起つて今春以來殆んど十ケ月に亘り孤軍健鬪せられつゝありしが、此程に至り遂に其志を貫徹し、町長の職を辭せしむるに至れり。吾人は滿腔の誠意を以て同氏の成功を祝し、其勞を謝す。因に吾本部へ寄せられたる同氏の挨拶狀左の如し。

拜啓秋冷の候倍御淸榮奉賀候、然者本春以來御配慮を煩し候當町に於ける風教問題其後の成行きは、遲々として解決を見る能はざりしを遺憾に存じ居候も、其運動に至りては主義の爲め一歩も讓らず初一念の貫徹を期し今日に至り候處、過ぐる五日貸座敷業主關田町長愈々辭職致し昨十五日臨時町會にて一名の異議者もなく承認直ちに後任町長選定候次第之れ畢竟當府中町民の面目を保持する爲め多大なる御後援の結果に外ならずと深く奉感謝候 何れ拜趨御禮可申述心得には候へども不取敢御挨拶旁々得貴意候 敬具

十月十六日

府中町 志賀淸光

廓淸會本部御中

京都祇園遊廓燒く

嘗て東京洲州遊廓に火災ありし當時『萬朝報』は論じて曰く、『宗敎家をして曰はしむれば、遊廓の火災頻々たるは、天の懲罰なるべし。遊廓の存在は知らず識らず其名を傳播するのみにして、風敎に害あるものにして、遊廓廢止論は此際一層の勢力を得べし。』と。洵に昨年四月吉原に大火ありて以來、次いで大阪難波新地遊廓に火災あり、更らに洲崎遊廓、秋田能代の遊廓等、祝融子の災に遭

ふもの頻々たり。而して今また京都祇園遊廓の失火の報を耳にす。吾人は斯の如く災禍相次ぎて不淨の巷を見舞ふを見て恰かも是れ天我國家、國民に對し、警醒の鐘を鳴らすを聞くの想なき能はず。

京都は來るべき大正三年に於て、最も嚴かなる我が今上陛下が御即位の大典を擧げさせ給ふの處なり。希くばその以前に於て、京都の地をして不淨の巷の影だに止めざるに至らしめん事を。

淫賣公營の國とならんか

『米子灘町遊廓は、形式上別天地を成し居れるも、地は内濱街道に沿ひ、且廓内に正業者の雜居せるありて、風紀取締上支障少からずとの見解により、移轉を主張する者あり、私に候補地選定中なりしか、愈内濱街道の右、籏ケ崎神社東北と内定し、用地九千坪(一反二百圓)を町費を以て買收し、之に十間幅の道路を通じて、殘餘を一坪五十錢の割合にて貸座敷業者に賃貸し、年額少くも三千數百圓の收入を得んとの計畫にて、既に敷地買收費七千百圓支出の件を可決せり。之がため遊廓側にては何れも恐慌を來せるも、大勢既決の今日如何ともなす能はざれば泣寢入となるべき姿なり。』と、こは大阪朝日新聞の報ずる處なり。此の記事にして事實とならんか。日本は從來淫賣公許の國なりしも、更に淫賣市町村營或は進んで遊廓國有官營の國とならん。嘆ずべき哉。

和歌山縣の置娼運動

和歌山縣にては、知事交迭の度毎に、種々の方面より置娼運動を擔ぎ出すを例とせり。現任川村知事の時代となりては、未だ表向きには一度も願書を提出せざれども、裏面に於ては、種々劃策しつゝある模樣なれども、川村知事は『本縣に於ては斷じて其の必要なし』と斷言しつゝあり。思ふに同知事の在職中は、蓋し如何なる運動も喰止めらるゝなるべし。吾人は和歌山縣の爲め、其良知事を得たるを祝す。

東京風紀警察の活動

早稻田大學生の奮起と共に、早稻田警察署の活動は、既に稱するに足るの成績を示せり。吾人は當路者が尚ほ倦むことなくして、風紀廓淸に忠實ならんことを希望す。其に就き思

豫て公共及慈善事業に熱心なる森村市左衞門翁は本會の事業を贊助し金貳百圓を寄附せられたり謹んで翁の好意を感謝す

ひ出すは赤阪警察署長の取りし撲滅策なり。同署長は曾て其の管内に密淫賣婦の續出せしに際し、彼等の活動時間を見計ひて日々警察署に出頭を命じ、嫖客の散せし頃歸宅を許したれば、賣淫婦等は營業成立たず、遂に四散するに至れりと聞く。又麻布霞町警察署の執りし取締方法は、管内廿餘の飮食店酌婦（悉く賣淫婦なり）に對し、身元調査を行ひ、其賣淫婦の父兄に對し一々照會狀を發せしより、賣淫婦の大恐慌を來し、今日にては殆んど一人の淫賣婦もなきに至れり。賣淫婦等はその國元に對し、現在の境遇を秘密になし居れば、父兄等は其子女が墮落の淵に陷れるを知るに由なかりしも、警察署の照會により、初めてそれと知り、救濟方を依賴し來るも少からざりしと云ふ。（日本警察新聞）之れ僅かに一策なり。若しそれ全國各地の警察官が、斯くの如く取締を嚴にしたならば、風紀の廓淸期して待つべきなり。警察官の奮勵を望む。

嗚呼遂に言ふべきの辭を知らず

俗稱お酉樣、即ち大鷲神社の祭禮には、吉原遊廓は四方の非常門を總て開放し、廓内は全く公けの街路と化し、參詣とは只その口實にして、多くは所謂素見の爲めに集る群衆、幾萬なるを知らず。其見るに忍ひざる娼妓と素見客との喋々喃々は申すに及ばず、殊に十一月五日の初酉は、日恰も檢黴の當日にして、幾千の娼妓は裲襠姿の出入り纖るが如く、驅黴院前の道路の如きは、娼妓と群衆と互にひしめきあひて黑山を築き、その醜怪、其混亂の狀、殆んど語るに忍びず。而かも是れ明日を以て明治天皇の百日祭を迎えんとする東京市民の實情にして、當局者の公許せる一種の市場なり。嗚呼、吾人は遂に許すべきの言葉を知らず。

藝妓税の上り高

各地方に於ける明治四十四年度徵收の藝妓税總額は、百四十五萬千三百八十七圓にして、府縣各雜種税中、車税の三百三十二萬餘圓の次位にあり。各府縣中右收税の最多額なるは勿論東京府にて十六萬九千三十二圓に達し、次で愛知縣の十五萬三千餘圓、長野縣の八萬四千餘圓、北海道の七萬五千餘圓、新潟縣の七萬二千餘圓、福岡縣の六萬九千餘圓等比較的多額なり。最少額は宮崎縣の八百十七圓にして、千葉縣の無税たる事は世人の知る所の如し。（都新聞）

斯くの如く一角の財源たるを以て、當局の吏員は藝妓業者に㒵諛なる事、恰も恩人を遇するに似たり。玆に於てか、藝妓の跋扈益甚だしく、かくの如くにして淫風日に盛んなり。慨すべきかな。

▼會　告▲

來る十二月二日（第一月曜）は第五回研究會の當日なるも都合により延期す。

國運の發展と正義の統一

貴族院議員
本會評議員　江原素六

◎先帝の御軫念

戊申詔書に『日進の大勢に伴ひ、文明の恵澤を共にせんとする、固より內國運の發展に須つ、戰後日尚淺く、庶政益々更張を要す、宜く上下心を一にし、忠實業に服し、勤儉產を治め、惟れ信惟れ義、醇厚俗を成し、華を去り實に就き、荒怠相誡め、自彊息まざるべし』とある。

國民擧りて文明の惠澤を共にせんとすることは、實に社會政策の大なる問題である、何となれば文明の進步は、物價の騰貴となり、貧富の懸隔となり、其惠澤に浴するよりは、寧ろ生活難の苦痛に陷る者多きに至るからである、先帝は豫め今日あることを軫念あらせられ給ひしことは、恐懼の至りで吾人は大に其實行に對して努力せねばならぬ。

而して其實行の順序としては、庶政の益々更張を要するのである。又其庶政を更張するには、上下心を一にし、忠實業に服し、勤儉產を治め、惟れ信惟れ義、醇厚俗を成すてふことは、動かすべからざる順序である、即ち上下一心風俗醇厚なるに至らば國運は期せずして自ら發展するのである。而して完全に上下協同一致の實を擧ぐるには其順序としては、先づ正義の統一といふことに心を用ゆることで有らうと思ふ、蓋し國家をして圓滿なる文明に進ましめんとするには必ずや正義の統一を理想とせねばならぬ、又正義の觀念統一せられて始めて國家は進步するものである。

◎正義の不統一——其一例

正義の統一とは、法律家の正義とする所は、敎育家宗敎家も之を正義とし、宗敎家の正義とする所は、敎育家政事家も之を正義として、正義の標準に衝突矛盾することなく、相一致することをいふのである。而して今日に於て、形式的には殆んど正義は統一してある、しかし精神的には尚ほ不統一の遺憾がある、この遺憾を補ふことが大切なる問題である、敎育者の大に注意すべき問題である。乃ち其不統一的の例證として、其第一例は昨暮十二月十五日、東京府下府中町に於て町長の選擧會が有た、其時大多數を以て町長に當選した人は同町に於ける江戶屋といふ貸座敷の旦那である。即ち法律によりて選擧會は開かれ、法律によりて投票し、法律によりて當選したる者で、法律上完全なる者である。故に郡長は正義として之を知事に上進し、知事も亦正義として、町長たる

認可を與へたのである。故に同町居住の神官僧侶、學校敎員等は町長として尊敬すべきは當然である。

去ながら理想的に之を考ふる時は、町長は一町の主腦にして、紀元節、天長節、學校卒業式等に於ては、參列者中の責任者である。且つ町長は赤十字社、愛國婦人會、在鄉軍人會青年會、農會等の主宰者として一町の風紀を改善すべき責任者である。敎育勅語、戊申詔書の捧讀者となることがある、詔書中の忠實業に服し勤儉產を治め、醇厚俗をなし、華を去り實に就き、荒怠相誡め、自彊息まざるべしといふ高潔なる言語と、貸座敷營業者とは、大なる矛盾である、かゝる者に勅語、又は詔書を捧讀されては、全く勅語詔勅の權威を滅却し了るのである、荀子の勸學篇に、蘭槐の根は芷と稱する香ひ美き草である、其これを腐溺の中に漸すならば、君子近けず、庶人服せず、其質美ならざるに非ず、漸す所の者然るなりといつて、神聖なる敎語も之を捧讀する者、之を敎ゆる者の人格によりて、其感化に大差を生ずるのである。

◎正義の不統一‖其二例

第二の例としては、行政官廳中にも、往々正義の統一に一致を缺ぐことがある。文部省明治三十二年第四號訓令には學校建築につき貸座敷、劇場、寄席等、敎育上故障ありと認むべき營業を許可し、又は建物を築造せしめざる樣取計はるべしとあり、然るに五六年前の事であつた。北海道旭川町に於て、小學校、中學校、女學校、及び其他の學校相駢列する所の神聖なる學校町の極めて接近せる場所に、新に遊廓を設置することになつた、同町の有志者大に驚き敎化上有害なりとて、其中止を歎願したけれども、內務省側では、風敎上害なしと、斷然遊廓設置を許可したのである。

◎正義の不統一‖其三例

第三、人權上に於ても、正義の不統一のこともある、例へば民法第八百三十九條には推定の家督相續人たる男子ある者は、男子を養子と爲すことを得ずと、即ち日本舊來の家族制度の習慣として、貧民の子を養ひ子とし、親權を以て、數十年間、無給金にて、奴隸的に使用する陋弊を禁じたのである此の如き陋弊は、維新後有志者中に論議する者が有つて、明治五年十月十二日、太政官布告第二百九十五號を以て、左の通り達せられた「人身賣買は、古來禁制の處、從來年期奉公等種々の名目を以て、奉公致させ、其實賣買同樣の所業に至り、以の外につき、自今嚴禁たるべきこと、農工商の徒弟は七年に過ぐべからずとて、無期限使役を禁じたのである、偶然にも紀元數千年前、ユダヤ國奴隸制度の法律に、金錢を以て贖ひたる奴隸といへども、滿七年を經過せば、之を放ちて自由の者たらしむべしとあるのと、甚だ似て居るのである。

兎に角男子の人權につきては、民法起草者に於ても意を用ひられたのであるが、女子のためには民法に何等の規定がない、故に大なる待合の女將は、二十人も三十人も養女を養ひ親權を以て醜業を强行せしめて居るのである。其他大都市に

於ては、常に二人三人づゝ養女を養ひ、成長せしめて、藝娼妓に賣却して、巨額の暴利を貪て居る者もある。彼等は牧畜者と同じ意味を以て、小女を買入れては養育して居るのである。故に女子の奴隷的慘狀は、民法發布前より甚しいのである。即ち人權上男女の間に於て、正義の統一に不完全なる憾がある。凡そ如何なる事情あるとも、親權を以て其子女に不道德の所業を强行せしむる權利は、絕對に許すべき筈ではない。然るに東洋に於ける文明國を以て自ら任ずる我日本に於て、此の如き陋風を公許することは、世界各國に對して、大なる恥辱である、吾々敎育者たる者は、大に注意せねばならぬ。

◎選擧場裡の腐敗と敎育上の責任

其他國運の發展上に大關係を有つ者は、自治體の良否である、而して自治體の良否は議員の良否に關するのである。然るに市區町村會議より、郡會議員、縣會議員、國會議員の選擧場裡の腐敗は、殆んど其極に達して居る、所謂朽木は彫るべからず、糞土の牆は朽すべからざるのである。就中各階級の議員數は常に增加しつゝ有のである。如何程議員の數を增加しても、不眞面目なる議員の監督眼は、枯れたる八ッ目鰻の目の如く、徒らに數多きのみである。

かゝる腐敗せる道德狀態は、舊き敎育を受けたる者に非ずして、槪して敎育勅語にて敎育せられたる者であり忠孝主義にて訓育せられたるものである。然らば如何程完全無缺なる敎育勅語、戊申詔書といへども、其効果の此の如くなるは、敎育者の責は決して遁るゝことは出來ぬ、故に文部省始め敎育者は大に猛省せねばならぬのである。

◎知行不合一の社會

かゝる結果の原因は、極めて簡單である、即ち吾々は眞理と知り、更に之を信ずることゝ、之を實行することゝは、別問題である、例へば法律の眞正なることを尊び信ずる者は、刑法學士より甚しき者はない、然るに判檢事辯護士にして、刑餘の人となる者もある。名譽を重んずることは、政事家を第一となす、而して各種議員にして、監獄へ寄留するもの頗る多いのである、衞生の貴重なるを知るは、醫學士より委しき者はない、而して醫者の不養生も亦珍らしくない。

某氏の統計によれば、普通人の犯罪者は一萬人に一人の割合である、法律社會の犯罪者は四百人にて一人、各階級議員の犯罪者は五十人につき一人の割合であるといふ。是に由つて之を觀れば、吾人は智的敎育、物質的敎育のみでは、國民の品性を向上發展することは頗る至難である、即ち知ると行ふとは別問題なのである。

◎敎育は宗敎と政事との補助を要す

抑々國家が國家の目的を實現しつゝ、國民の福祉を增加せんとせば、悉く國民敎育の力に竢ねばならぬ、故に孔子も『敎へざる民を以て戰ふ、これこれを棄つ』と曰はれたのである

即ち今日の戰とは、鐵砲玉の戰ひと、十露盤玉の戰に於て、戰勝者たるを要するのである。然りと雖も敎育其ものゝ効績を完うせんとせば、固より政事と宗敎との補助を要することを忘れてはならぬ。例ば法律の如き、槪して積極主義である如何なる法律と雖も、國運發展の意味を含まぬものはない、例へば偶然傳染病者が發出するや、啻に其病者を治療するのみならず、或は豫防し、或は消毒して、其病根を撲滅するのみならず、所謂大掃除の如きは是によりて併せて國民をして淸潔なる生活の情操をも養はせんとするのである。即ち天然痘の如き種痘法と警察力と相須つに非ざれば、今日の如く種痘の普及して、國民の幸福を享くることは、敎育の力のみでは出來ぬのである。

然るに宗敎家が、未丁年者禁酒禁煙法や、一夫一婦制のことにつき、法律として之れが發布を爲さんとするや、多くの敎育者はかゝる問題は法律の力に須つべき者ではない、敎育の功によるべき者なりと反對するのである。無益の負惜みである。法律の制裁と相一致して、其目的を遂ぐることは、勞少くして効多からしむる所以たるを知らないのである。

◎宗敎は敎育と法律の効果を補助す

法律が敎育の効果を補助する如く、宗敎は更に敎育と法律との効果を補助する者である、肉によりて生るゝ者は肉なり靈によりて生るゝ者は靈なりといふ格言の如く、宗敎心なき法律と、宗敎心なき敎育の結果は、自然に保守的となり、物質的となり、物質的敎育は自己本位となる傾向が生ずる。

即ち宗敎は槪して神佛本位にして、信念によつて動作するものである、故に正しき動作は履行せざるべからずとの義務的に之を行ふにあらずして、吾人の心中に潛在せる偏向は、吾人を刺戟して爲さゞるべからしむるのである、即ち宗敎は法律敎育の實行に生命を與へ、進步を與へ、改善を與ふるものである。且其改良たるや、決して其國體、其政體、其文化と衝突する者ではない、日本社會に始めて靑年會、婦人會、夏期學校を開き、未丁年者の禁酒禁煙を主張し、一夫一婦を唱道し、公娼全廢を絕叫する如き、幸に成功したりとて、國家の利益を進むるとも、決して減ずるものではない。

之を要するに敎育の國家に對する位置は、空氣に比すれば窒素の如く、最大勢力、最大部分である、即ち空氣中七五五といふのである、然るに折々窒素中毒といふことを聞く、窒素は固より有毒ではない、たゞ酸素の分量の減じた時、不健康となるのである。宗敎は敎育に對する酸素である、故に宗敎家が、社會上窒素的たらんとして、出來るものでなき如く敎育家も宗敎を全く排除して、其敎化を完うせむとすることも誤りである。故に吾々敎育に從事するものは、宗敎家の正義とする所と、政事家の正義とする所とを調べて、共に之れが實現を助長することを務むるのみならず、亦進んで彼等と提携し、正義統一の硏究をなし其統一を圖り、以て國民の福祉を增加し、共に文明の恵澤に浴するために、力を竭したく希ふのである。

娼と死の研究

廓清會評議員　文學士　三輪田元道

(一)乃木將軍の死と料理人某の情死

「死」といふ事は毎日ある事實である。死の社會に現はれる特性は、何人も嫌忌する事であらう。秦の始皇の如き史上の英雄も、死に對する恐怖に打勝つ事が出來ず、其臣徐福をして遠く蓬萊山に不死の靈藥を求めしめたと傳へられてゐる。況んや今日の如く人間のあらゆる情慾を滿足せしむる設備、機關が發達充實せる時代にありては、「生の繼續」を希求して止まないのは當然の事で、死を厭ふのは人間本來の情である。併し乍ら「死」は如何に厭ふても到底免れるといふ事は出來ない。富も權威も「死」の前には毫末の力だにないのである。「死」とは如何なる狀態の謂であるか、一言以て之を掩へば肉と靈魂との分離する現象である。而して其分離のしかた如何によつて其價値を異にするものである。耶蘇基督は死んで三日目に蘇つたといふ、或宗教家は之を文字通りに解釋してゐるやうであるが、我々は彼は肉に於て死し、靈に於て蘇つたと解釋するのである。要するに死は肉と靈魂との分離を意味し、其分離の方法如何によつて、其人の人格若くは歷史上の價値に於て大なる差別を生ずるといふ事は確である。そこで私は「娼と死の研究」と題し、日本に特有なる公なる娼の制度が人類に及ぼす影響如何、此娼なるものが死なるものと連鎖する現象如何等を考へて見たい。而して娼に關聯せる死の如何に多く如何に悲慘なるかを了解し、慄然として娼なる制度を怖れ憎むに至らん事を庶幾するに外ならぬのである。

九月十三日午後八時といへば、何人も直に頷くであらう、世界の耳目を聳動した驚歎すべき悲壯なる大事件が起つた時刻である。乃木將軍夫妻の自殺即ちそれである。けれども彼の如き大なる死ではなく、又彼の如く高位高官の者でない爲に世間の人に認識さるゝ事なく、而もより辛き思ひをなして此世を去らんと企てた人が此附近にあるのである。それは三田の通りに今福といふ牛肉屋がある。そこの料理人の山內德藏といふ者が品川で情死した事である。其情死したのは時間に於て乃木大將と近い、世人は既に忘却したかも知れぬが今月七日の午前二時であつた。乃木將軍は先月であつて尙人が

忘るゝ事が出來ない。否千載に亘りて乃木將軍の潔き血汐は大和民族の血管に流るゝであらう。今福の料理人は時間に於ても地理に於てもより近いのにも拘らず世人に忘れられてゐる。死の瞬間に於ては乃木大將の眞面目なるが如く、等しく今福の料理人も亦確に眞面目であつた。私は乃木大將の死の瞬間に於ける心理狀態よりは、より複雜にして且つ悲慘なるものがあつたと思ふ。我々の同胞に斯の如き哀れなる死者があるけれども世間の人は認識して呉れない。のみならず之を罵倒し、卑しむ可く笑ふ可きものであるとして、車夫馬丁にまで辱しめらるゝのは如何なる理由であらうか、之れ私が此演題を出した所以である。卽ち死といふ事の動機なり、目的なり、又其刹那に於ける狀態如何といふ事が人間に千差萬別の價値を與へるものであるといふ事を述べて見たいと思ふ。

《二》死の種類

死の種類を大別して見ると、先づ第一に病死である。之は普通の死に方で、有名なる獨逸の哲學者ヘーゲルは虎列剌に罹つて死んだ、勿論ヘーゲルは虎列剌で死んだが故に有名なのではない。乍併彼は病死であるが故に或ひは喰過ぎ……不攝生——不節制でありはしなかつたかといふ樣な事も考へられ得るのである。喰過ぎて死ぬなどゝいふ事は實に冗らない死方である。第二は變死である。一代の碩學藤田東湖は安政の頃地震の爲に死んだ、鴨居が落ちて壓死されたのである。東湖の死も鴨居が氏を偉ならしめたのでは元よりないが、這麼不慮の災難に遭逅して死ぬのは遺憾千萬な死に方であるといはねばならぬ。第三は餓死である。周の粟を食まなかつた白夷叔齊は其一例である。裏長屋に於て餓死する人は澤山あるけれども、餓死の故に其人格を大ならしむる事が出來ぬ。何となれば餓死は餘りに平凡であるからである。第四は憤死である。三宅雪嶺博士は乃木大將の死を憤死といふ文字を以て形容してゐる。處が或人は憤死以上であるといつて之を憤慨してゐる。そは何れにしても此憤死なるものは病死や餓死變死などに比して遙に我々の重んずる死方の一である。汨羅の鬼となつた屈原の如きは其好個の例であらう。屈原は顏色憔悴して世の中に對し大なる不平を抱いて憤死したのであるが、死も玆に至ると壯烈で、死の價値といふものが生じて來るのである。第五は戰死である。廣瀨中佐の如きは其最高の例である、之は社會に對する義務的のものであるだけ、それだけ社會から重んせらるゝのである。第六は義死である。義理で死ぬのである。四十七士の死は之である。第七は殉死である。乃木大將を殉死といふけれども、私は殉死の手本に將軍を取りたくない、殉死以上のものであると思ふ。他に例を求むれば彼の德川家康の草履取が家康に殉したといふが、之が最も適切なる殉死の例であらうと信ずる。第八は情死である。情死といふものは之を純文學の上から見るならば隨分價値のあるものである。併し世間の人は氣の毒だ、可哀想だ、とはいふものゝ、尊い事だ、偉い事た、感服すべき事であるとは決して言はぬ。第九は厭死である。世の中を厭ふて死ぬ

のである。巖頭の感を書いて華嚴の瀧に投じた藤村操は卽厭死である。或人は彼の青年が、萬有の眞相は不可解であると言つて研究せずして死んだのであるから誤つてゐると冷笑されてゐるのを聞くのであるが、そは兎も角も、死の種類は如斯千態萬様である。私は此澤山ある死の中から娼に關係あるものを引拔いて諸君と共に考へて見たいと思ふ。

（三）娼と情死との關係

娼に關係した世間の例は、毎日新聞の三面が報じてゐる。元より此現象は大正の世に始まつたものではない。神武天皇以來の現象である。けれども玆に注意すべき事は情死は日本に限る特產なる事である。日本では情死をするといふ興味ある習慣を有つてゐるのである。之は私は別に考へて見たいと思ふが、要するに國民生活の上に避く可からざる慣習から情死するのであつて研究に値するものである。德川時代にありては文豪近松が當時の情死者を澤山描いて居るが、「生玉心中」といふのを讀むと茶碗屋を商賣してゐる嘉平治といふ男が女郎の嵯峨といふ女と心中した事が書いてある。實に氣の毒で何人も一掬同情の涙を惜しまないのであるけれども、而も楠公のやうな死方をしたとか、ソクラテスのやうな死に方をしたと云つて褒めるものはない。或は馬鹿な奴だと冷笑する寔に氣の毒である。恰度今福の料理人の山內德藏君の死に對して世間が同情を寄せないと同樣である。

嘉平治の事柄は遠い過去に屬するから其眞相を詳にする事が出來ないといふならば、今福の料理人某に就て調ぶるがいゝ。私も新聞によつて見たのではない、實地に就て研究したのである。某は實に溫厚の君子であつた。平生から借金もしない。朋友の惡口も言はない。喧嘩もしない。朋輩に向つても好い人であつた。彼の職業及彼の地位から比較的に云へば實に善良なる人であつた。唯伯爵ならざるが故に有名でなかつたのである。大將ならざるが故に有名でなかつたのである。其素質に於ては等しく確に善良なるものであつた。聞く處によれば彼は心中に赴かんとする前日に於て主人に暇を貰つた、之は何を意味するか、卽ち彼は、何某の雇人某が云々と新聞に現はれたならば主人や雇人に迷惑を懸けると考へたのである。それでは濟まないといふ考へから暇を貰つたのである。此一事を以てしても彼が如何に善人であつたかといふ事が思ひ半に過ぎるではないか、又彼は花魁の許に八十三回通ふたといふ。僅か料理人風情で八十三回通ふたといふ事は容易ならぬ事である。にも拘らず彼は借金などをしなかつた。偶々借りる事があつてもすぐ返した。彼は全く「立つ鳥も後を濁すな」といふ格言を實行したのである。彼は片身とや思ひけん、色々の品物をそれ〴〵朋輩なり知人なりに分配した。銘仙の新しい着物があつたのも奇麗な心を以て友達に與へた。最期迄如斯美しい心を有つて居つたといふ事は彼れ伯爵にあらず大將にあらずと雖、比肩するに足るのである。斯くの如く善良なる人であれば其最後に於て名譽の花は僅ながら必ず墓前に咲くのであるが、惜しい哉光る玉が碎けたとや云

はむ美しき花が萎れたとや云はむ、彼の最後は洵に憐むべきものとなつて了つたのである。之は何が原因であるかといふと、娼といふ制度が日本にあるが故に日本臣民の善良なる者を驅つて事茲に至らしめたのである。一人の今福の料理人が此手に掛る許ではない。之に接近する樣な危い人間が、今晩唯今も品川や吉原附近を澤山蹣跚いてゐるであらう、これ等も實は彼と類似の最後を遂げんとする行程にあるのである。吾々は吾々の同胞に斯の如きものがある事を知るに於いては沈默する譯には行かぬのである。死元より怖る可しであるが殊に心中して死ぬるといふ事は悲慘なものである。特に娼と共に迷道に行くのは、餘りに口惜い事ではないか。

近松が書いた生玉心中の嘉平治なる主人公は如何なる人であつたかといふと、年老ひたる父もあれば母もある。盲目の弟もあつた。又許婚もあつた。彼は祖先の暖簾を穢し、老ひたる父母を殘し、盲目の弟に背き、許婚の義理を破つて心中したのである。實に悲慘なものである、斯ういふ悲慘な最期を遂げたといふ事も、實に女郎といふ惡魔があつたからである。斯く云へば女郎を甚罵倒したやうであるけれども、女郎と雖我等の同胞である、姉妹である。女郎の境遇を聞いては轉た同情に堪へないのである。今福の料理人某が品川で關係した小櫻といふ婦人は、僅に三百金の爲に六年間浮川竹に身を沈めたのである。彼が情死者となつたのは自分の境遇の如何に果敢なきかを感じて遂に茲に至つたのである。生玉心中の蜒蛾といふ女もさうである。矢張り浮川竹の境涯にあつて自由の行動が取れない所から情死の道を取つたのである。ここが公娼と私娼と大に違ふ所である。公娼制度の恐るべく憎むべき所である。三百金を六ケ年に割ると僅に年五十圓である。贅澤な人の一ケ月の煙草代にも當らぬ。彼等は僅五十圓の爲に娼といふ淺ましき境遇に泣き、動物的生活に苦しみつつ惡魔の如く善良なる青年を誘惑し墮落せしめ、家庭を毒し國家を咀ふ原因となつてゐるのは確な事實である。斯かる驚歎すべき事實を眼前に控へて居つて、一等國だの文明國だのといふのは甚だ不釣合ではあるまいか。

《四》娼の社會に及ぼす影響

娼といふものが人類に及ぼす影響の如何に激甚なるものあるかを少しく列擧して見やう。川柳子歌ふて曰く「吉原が明るくなれば内は闇」と、娼は人間を沒常識にするのである。内が闇といふ事は即ち沒常識になる事である。如何に怜悧な人間をも全く愚了し痴化せずしては止まないのである。それに娼といふ者に關係すると人間が破廉耻になる、私は今はさういふ朋友を有たないけれども、嘗ては女郎買をする朋友もあつた。私も往きはしなかつたが中々危かつた。所が此の女郎買をする人を鑑定する標準があるのである。といふのは女郎買をする人は屹度ケチな人である。金錢に淡泊でありさうに思ふ人もあるかも知れんが實は却つて吝嗇漢である。彼等は必ず我利々々盲者なのだ、金よりも尊い肉慾に滿足せんが爲に一切の道德、一切の人情を放擲し蹂躙して省みない。而

して金さへ拂へば生きた人間がどうにでもなるといふ考を有つてゐる。之が即社會を紊亂する憎むべき破廉耻漢を養成する一因なのである。次に娼といふ者との關係は人間を自暴自棄にする。之も確な事實である。私の朋友にもさういふ例がある。學生時代一人の秀才があつた。寔に敬服すべき人であつたが、一朝彼は娼に關係した爲に信用は失ひ學資は途絶し、遂に自暴自棄となつて今日は非常なる墮落の底に陷つてゐるのである。これ等は全く娼あるが爲に起る社會の現象であつて、娼があると死ぬる人迄殖えて來るのである、眼科の醫師に聞いて見ると眼病の大部分は梅毒に原因を有しておるさうである。本人は知らないかも知れぬが醫師はさう認めてゐる。死の原因の中に梅毒が如何に多くのプロセントを含むかは何人も容易に首肯し得る所であらう。更に貧困の爲に死ぬ者、餓死する者、これ等の人の中にも若い時の放蕩に起因してゐるのが決して尠少でない事を何人も拒むまい。或は又娼と關係するといつか厭世思想を起すやうになつて、自殺者が殖えるのである。思ふ美人を生捕る事が出來ない。情なやと兩手を組んで天井裏を睨めてゐる人はまだいゝ、振られたといふ事の原因の爲に死を決する人すら新聞紙は屢々報ずるではないか、厭世思想と娼とは又密接の關係を有してゐる。それから情死に至つては娼に關聯するものが最も多いのである。中には良家の子女と關係したといふのもあるが、それすら源に遡つて見れば娼婦の影を間接に見出すであらう。否詮ずる所社會の淫風は總て公娼制度が源であると斷言してよい。

《五》之れ最も重大にして最も光榮ある戰也

之を要するに娼と死が極めて密接なものであり、娼に關係あり若くは因緣ある死が、悲慘で且劣等なるものとして擯斥されてゐるといふ事を了解し得るのである。先に述べた如く今福の料理人は善人であつたけれども世間が認めて呉れない娼に關係したからである。乃木大將の如きは正義の爲め人道の爲犧牲となつたのであるから、彼は日本人の所謂神ともなつたのである。同じやうに死んでも一人は神となる事か出來一人は社會から罵詈讒謗の的となつてゐる。聞くに堪へない惡聲を放たれたのである。我等は此對照によつて生ける教訓を受取る事が出來るのである。と同時に娼といふやうなものは社會に於て最も劣等なる醜業であるといふ事を認識し得たと思ふ。されば公娼を廢止するといふが如きは、最早說明や議論を要しない。社會人類を蠹毒する根源たる事は既に極めて明白である。而も世人の冷淡なる直接己れに關係なくば對岸の火災として袖手傍觀す。日本人の利己主義なるが爲である。既に同胞姉妹の中に此の悲慘なる境遇に沈淪せるものあるを知つて之を救はざるは勇なき也である、仁なき也である。否人にあらざる也である。亞米利加人の誇りは奴隸廢止の爲に戰つた事である。吾等も亦東洋先進國の醜制、二十世紀昭代の蠻風打破の爲に猛然として起たなければならぬ。此の人道上の戰爭こそ正に大正劈頭になさるべき最も大にして最も光榮ある事業であらう。（廓清會秋期大演說會にて）

娼妓の解放と相俟つ可き家庭の廓清

廓清會評議員　井深花子

公娼廢止の必要な事は申すまでもございませんので、既に
それ等の廓清事業に關する研究は識者の間に充分遂行されつ
つあるのでありますから、私共の云はんとする事もモウ皆さ
んが云つておしまいなさつたやうに思ひます。
で私は別段珍らしい新らしい意見と申すものも持ちません
が、それでもかねぐ考へて居ります事を申上げますと、公
娼廢止を絶叫すると共に、また家庭の內部より廓淸して行く
必要があると思ひます。

○嘆すべき上流社會の罪

我國の道德上最も缺げてるのは男女の關係でありまして、矯風會の方でも毎年一夫一婦の建議案を議會に出しますが、未だ一度も本議會の議題となつた事すらありません。主義でありますから會の方ではそれを知りつゝ出しますが、通過しない筈です、もしそれが成立しようものなら、議員の大多數殊には國務大臣までも皆刑律の罪人とならなければなりませんもの。

今日上流社會の紳士貴族の放縱な行を見ますと實に情なくなります。上に立つて下を導く可き責任ある方々ではありませんか。少くとも世人は上流の風儀をまねたがるものです。それを暇があり金に自由の利くのを惡用して、あさましい肉の慾を貪ると云ふのは、どれだけ社會に惡い感化を及ぼすか、考へると實に悲しくなるのです。

私の知つた人で、淑女にはなりたいが貴夫人にはなりたくない、貴夫人と云はれるのは迷惑だと云つた方がありまして、私共もほんとに貴夫人と云ふ名は嫌だと云つて話した事でございました。現時の貴夫人と申す方々を見ますと、そりや立派な方も、いくらも有るにはありますが、中には隨分いかゞはしい、醜業婦上りの人も少なくはございません。彼等は、德もなく人格もないのに、只夫の地位、夫の名聲に依つて貴夫人として人の上に立つてるのです。

そんな婦人を自分の妻として耻ぢず、立派に公會の席へも出して、男子がこれを意とせないと云ふのは實に嘆ず可き事ではありますまいか。私はこの點についても、モ少し世の殿方に自重して頂きたいと思ひます。

○ソドムゴモラの日本

何しろ日本では未だ多數の男子が醜業婦に關係するのを耻

と思つて居ない。例へば電車等で、藝者をつれてる人を見ますと、私共は何と云ふ馬鹿氣た人だらうと思ふのですが、その御當人は却つてそれを男の誇と考へて居るらしいのです。

中流社會は比較的いゝと云ひますが、これもあやしくはありますまいか。金がないから仕方なく眞面目にしてるのではなからうかと思はれます。その證據には、中流の人でも、何かの機會でその翼を伸ぶるに充分なる地位か金かが出來ると、昨日迄の眞面目な中流生活を忘れたかの如く、矢張上流のものゝやうにだらしのない行動をするではありませんか。そうして見ると、これは上流のみの弊風でなく一般の風潮のやうに思はれまして愈よ心細くなります。先祖傳來の病菌が深く〳〵日本人の精神に喰込んで居るのだと云はなければなりますまい。

このまゝで子は親に勝り、孫はその父に勝ると云つた風に今日の弊風が漸次勢を增して傳つて行つたなら、我が國の運命はどんなになりゆくでせう。假令物質上の文明は進歩しゆくとしてもソドムゴムラの昔は、人の事ではないかと思はれます。

乃木さんが立つても坐ても居られない程憤慨されたのも無理はありません。

乃木さんと云へば、あんな立派な偉い方が生きて居て下されば、只居て下さるだけでも……今日の人がけぶたく思ふ…そのけぶたく思ふ、それだけでも、どんなに社會の風俗の上に好影響を及ぼしたか知れませんのに、實に惜しい事をしました。

○家庭の廓清を要す

さて實際の問題になりますと、私は今日の社會を廓清するに、家庭を清める必要がある、その家庭を清めるには、即ち家庭の中堅となる夫婦——父母その人の自覺にある、それが第一に大切なものだらうと思ひます。

私の知つて居ります華族さんで、子供の教育にはなか〳〵行屆いてると云ふ方がありまして、その御子さんの學校の往復は素より嚴重に取締つてある。歸りの如きは必ず門內まで見屆けさせると云つた風で、まことに少しの手落もないやうでございますが、一歩その家庭の內情に立入つて見ますと、父なる人は妾を畜へ、妖婦に戯れると云ふ有樣、これでは如何程子供の監督を嚴重にしても、事實に於て惡るい手本を示してるのでありますから矛盾した話で効果の上らう筈はありません。只出られないから、惡るい事をしないと云ふだけで、その御子さんの根本の精神に及ぼす結果はいかゞでございませう。

こんな例はいくらもございます。恐らく大多數の父親はこんな態度をとつて居られるではありますまいか。

○不良少年少女は家庭が生む

只に父親ばかりでなく、世の先輩と云はれる人々が、そうでございます。近頃新聞などでよく見ます不良少年、不良少

女と云ふのも、皆學校の罪か何ぞのやうに申しますけれども、私は然とは思ひません。尤も監督の行屆かなかつたと云ふ落度はありませうが、その根本の原因は家庭にあるだらうと思ひます。だから彼等を鞭つ前に、先づその父親自身が反省し、又世の先輩も己れを顧みる必要がありはしますまいか。

父兄先輩が善い手本を出しても、兎角、惡るい方に傾きやすい青年少女ですもの。上に立つものゝ其の不しだらな素行に感染せぬ道理はございません。

自分は締のない人をしてその子にばかり惡るい事をするな、見習ふな、善い事をせよと云ふのは、無理な不條理な事でございませう。

私は素行の修まらない人を見ると、いつも、子供が可愛くないのだらうかと思はないでは居られません。

○其子女のために模範たるに足る父母となれ

或大酒家が、自分の子供の酒を飲むのを見て、はじめて悟つて禁酒をしたと云ふ事がありますが、モウそれでもおそいのです。

又或紳士で——これは名望ある方で、今では品行も正しく、眞面目な紳士として大層知人の間に尊敬されてる人でありますが、——以前大變道樂をなさつたゝめに、お子さん方があまりよくないと云ふ方がありますが、それから考へて見ますと遺傳と云ふものは恐ろしいもので、母の胎内に居る内は固よりの事、それ以前の親の性行習慣が子孫に及ぼす勢力は實に恐る可きものでございます。

けれども既に古來よりの遺傳を受けた、現時の人は是非ないとしても、親たるものが眞にその身を清く保ち、その如く子供を教導して行つたなら、二代三代と、時を經るに從つて、弊風は矯正せられ、ほんとうに強い國家、幸福な社會を形成する事が出來るでせう。

又假令親の遺傳を受けたる不幸のものと云へども、家庭に於て、兩親が高潔な行を事實に示して訓育するならば、それが惡るい方に向うとするその性を押へ〳〵て、終には知らず識らずの間に善良の人間となる事が出來るのであります。

○昔の婦人と今の婦人

以上は多く殿方の素行に關して申しましたが、家庭の廓清につきましては婦人の責任もなか〳〵輕くはないのでございます。只今では時勢の變遷と共に、舊來の道德の誤つて居た事なども次第に明白になるにつれ、婦人の思想にも相應の、否むしろ大なる變動がありました。

昔の婦人は嫉妬と云ふものを、女の最も愼しむ可きものとして敎へられ、男子はその財力の許す限り、如何に多くの妾を蓄ふるも、如何に放縱の行があつても差支ない、それのみか、却つて男子の働として誇としたのであります。妻の方でも亦、自分の夫は幾人の妾を有つてると云ふと、働のある夫を持つたとして、寧ろ名譽として居たのであります。それ

から又、その夫の妾をいたわり、妾の方でも奥様〳〵と云つてなづいて來るやうになるのを大なる婦人の美德と心得て、密に誇としてなほ又世の尊敬を得て居ました。夫の方でも亦それを以て、自分の妻は賢夫人だと云つて鼻を高くして幾人の妾があらうとも、妻は妻として尊敬して居たのであります。だから、それを以て正しい人倫だとし且武士的敎育に依つて訓練された昔の婦人は、假令大なる犧牲を拂つたとしても、心中幸福であつたに相違ありません。

然るに今の婦人はどうであるかと云ふと、一夫一婦の正しい人倫であると云ふ事を敎えられて、舊來の道德の誤を指摘され初めて目は覺めたが、さて男子の素行は舊に依つて改められない、——尤も昔は公然であつたものが今では内證と云ふやう多少の差はありますがその代りまた、妻に對する夫の敬愛の念と云ふのが昔程にあるかどうかそれは疑問でございます。——だから今の婦人は非常に煩悶するのです。

夫がどんな事をしても笑つて迎へたと云ふ女の時代は過ぎて、目の覺めた今の女は先方がそんな事をするなら——と云つたやうな反抗の心も起すし、不平は不平として色にも言葉にも素振にも現はす。それが出來ないものはヒステリーとなるので、貴夫人でヒステリーならぬものは、まことに少いとか申します。昔は女が夫の不品行のためにヒステリーになつたと云ふ話も聞きません。由是見ても覺めた今の婦人は、昔の婦人より不愉快な月日を送つてると云ふ事が出來ませう。

これがまた子供に及ぼす惡影響はなほ更甚しいもので一人婦人のみの不幸ではないのです。この點については大に父たり夫たる男子に反省を願ひたいものだと思ひます。

○婦人の自覺と修養が大切

成程家にばかり閉ぢこめられた婦人が、自働車や馬車で夫と同乘して園遊會だとか何だとかに出るやうになつたと云へば婦人の地位も向上せられて、幸運な時代になつたやう思はれますが、それは外形ばかり、表面だけで、心の中に云ひ難い苦痛を抱いて居ましては何も面白い事はありますまい。

これを進めて眞に幸福な家庭をつくるには素より男の行の改まるのも必要でありますが、また婦人の自覺、決心、努力も忘る可からざるものでございます。即ち婦人自らが自由に婦人會などに行けるやうになつたからと云つて徒らに虛榮に憧がるゝやうな淺墓な滿足を以て自らを慰める事なく、相應に精神の修養をなし、人格を高め、品位を上げ、自ら男のおもちやにはならない、また夫をして、どうしても妻の前では汚れた心を持たれないと云ふやうな程度にまで向上すべきであらうと存じます。

「妬くから言へない」と云ふのと「どうしてもそんな汚れた事は言はれない」と云ふのとは大變な相違でございます。

婦人にとりましては現今は實に六ケしい時代で確かに女子の地位を高める機運に向つてるのでありますから、男子の反省を願ふと共に婦人自ら顧みて、いつでも自分に範へと子供に云ふ事が出來たなら、家庭は云はずして幸福になるので、從つて公娼の必要もなく社會も淸められるのでございます。

寄書

嗚呼聖代の一恨事

―速かに奴隷を解放せよ―

陛下の一赤子

益富賢兄足下

先帝陛下の崩御は實に國民の哀悼痛惜の極みなりき。唯々謹愼以て自己の本分を盡し御在世に倍するの奉公を致さんと期しつゝあり。然るに爰に我等の同胞中に、謹愼せんとして能はず、天分を盡さんと欲して成らず、邪惡の豺狼の嚙むに任せて、滅び行く同胞あらば如何。爾かも是れ陛下の赤子なり、

益富賢兄足下

陛下の恩寵慈悲は今や牢獄にある囚徒の上に大赦の恩命となりて下りぬ。此時可憐なる同胞は、罪なくして牢獄に等しき一廓に閉され、囚徒にして尙且つ受くべき恩典にも浴する能はずして、依然豺狼の爪牙にさいなまれつゝありとせば、足下よ、聖世の恨事之を如何とかする。

益富賢兄足下

余が今聲を絞つて叫ばんとするものは我が同胞の自由の爲めなり。可憐なる我が兄弟姉妹たる醜業婦の爲めなり。汚辱と慘忍の沓に蹴らるゝ奴隷を解放せよ。奇怪なる制度を我が皇國より撤廢せよ。少くとも彼等をして、囚徒の受くる恩命に浴せしめよ。

益富賢兄足下

足下の主幹せらるゝ『廓淸』は、之等薄倖なる婦女の爲めに正義の旗を飜へして立てり。足下が縦横の奮闘努力は、我等感嘆おく能はざる所なり。しかも多くの矯風事業中、此の廢娼問題は最も至難の事に屬す。足下身を提して此の至難の壘に肉薄す。その苦心や察すべき也。法律が許せる廢業すら、之を實行するに至りては幾多の障害を有すと聞けり、況んやその根本に突入して、此の制度の撤廢に努めんとす。あゝ難事!、何時の世に於てか我が姉妹等の上に自由の曙光來るや今や罪囚の上に大赦の恩命は下れり、しかも解放の福音は我が可憐なる同胞の上には至らざる也。

益富賢兄足下

余は微力にして遂に何等の効果をも實現する能はず、空しく腕を撫して斷腸の悲涙に咽ぶ事久し、希くば我が廓淸會が一日も早く此の解放の大運動を開始せん事を。然らば余は家をすて、妻子をすて、一身を擲つても救濟の犧牲たらん事を期す。あゝ希くば我が廓淸會をして一日も早く凱歌を奏せ

しめよ、最早机上卓説の問題にあらずして、事實上斷行べすきの日は來れるなり。足下直ちに陣頭に立つて斷行の魁となれ。意餘りて筆足らず、希くば諒せよ。

道徳と經濟

芝吹出町　小田榮次郎

廓清會が醜業者に對して自覺せしむる要項は多々あるが、私の最も感ずる一面は、就中『道徳と經濟』と云ふ事であります。世の中には法律に觸れない限りは如何なる營業を爲すも、自由であつて、所詮は金を儲ける事が職業であると考へて居る者が多數を占めて居るが、併しその金儲けなるものが道徳的でなく、不正なる手段方法によつて富を致した場合には、如何なる立派なる邸宅に住める者と雖も、少しも尊敬すべきものではないのである。否、尊敬どころではない、社會に害毒を流す者は、多く此處に起因する、此の害毒に醉はされたものが彼等醜業者である。彼等は正不正を省みる暇もなくして金慾に趨つたのである。

經濟は元より金錢物質によつて立つものであるから、此の場合經濟と合致する道徳觀念を彼等に注入して、暗々裡に物質慾に溺れ行く彼等醜業婦を救ふことは、廓清會が彼等に自覺を與へる隨一義であると思ふのである。

所感

和歌山縣那賀郡粉河町　河里彦次郎

△夫婦の無い國　妻は夫の意に沒入し、物の善惡を論せす、夫の命是れ從ふのが貞女と云ふ。此の男女同棲をさして夫婦と云ふ。併し之は夫婦ではない。女は高等なる下女である。奴隷である。家具である。人形である。謂はゞ男子は獨身である。日本人は未だ夫婦の字に意義を知らぬ、聖書に『二つの者一體となるなり』とある。そんな夫婦は日本には無い。所詮日本は夫婦の無い國である。

△頭の無い國民　外國の一新聞記者は、日本人を頭のない國民と云つたさうである。最愛の娘の貞操を賣つて、兩親は其が爲めに安逸を貪つて居ても、社會は是を責めないのみか、却て其子を彼は孝子である、出世奉公であると云つて賞めて居る。さて其の『孝子』が年期滿ちて家に歸らんか、社會は孝子の龜鑑として賞め、近村の人々は、一村一町の名譽として之を歡迎すべき筈なるに、さはなくて泥水稼業をした

者として之を輕蔑し、誰一人として同情し、世話してくれる者もない。考へて見れば此國民は記者の說の如く頭の無い國民である。

△新聞記者の低能兒　紀州新宮勝浦は近頃密賣婦の多い爲め、梅毒の延蔓甚しく故に豫防策として公娼を設置すべし、且勝浦は船舶の出入も多く、從つて土地の繁榮策としても良策なりと、大言大書せし新聞がある。公娼を以て梅毒を豫防し土地繁榮を計るとは何の事か、今日は最早如何なる人も其事の間違つて居る事を知つて居る、知つて居べきである。然るに社會の木釋たり、國民輿論の先導者ともなるべき新聞記者が、それを知らぬといふならば、それは新聞記者の低能兒である。

吉原の研究

牛込　眞散子

△吉原で生活する人　吉原遊廓地は廓內二萬七千六十七坪にして此內に所謂樓と稱する貸座敷の總數百五十七軒、娼妓の數二千五百五十五人である。之を全國の娼妓四萬八千七百六十九人(明治四十三年末現在)に比すれば其廿二分の一になつて居る。此娼妓に附屬せる鴇母、新造、番頭、仲働等の男女の雇人が吉原全體で男が六百八十名、女が八百四十名で、所謂御內所と稱する樓主の家族は此外になつて居る。お茶屋が六十四軒、食物を妓樓に入れる所謂臺屋なるものも多數あり、冷かし客を目的とせるおでんやが四十軒程、大福屋が十軒、甘酒屋も十軒、辻占賣十三四人ある。

△娼妓となる動機　婦女子が遊廓に身を沈めんとする動機は種々あるが大別すると三つになる。第一の原因は親の窮困である。第二は女子自らが墮落の結果娼妓となるもの、第三は田舍に居て百姓に嫁するよりも運がよければ立派な商人の御內儀ともなることが出來ると云ふ虛榮心から成るものもある。そして大抵は買出しと稱する桂庵等の出鱈目の言に乘せられて、甘味い物を食べ、華美な着物を着て、毎日遊んで暮されると思つて身を賣るに至るのである、前借金と稱する身の賣代金は大抵六ケ年二百圓乃至三百圓が普通である。尤も下等になると七八十圓の者さへある。近年迄は大抵三ケ年を年期としたが、此頃は六ケ年が普通になつて居る。尤も上等の女になると六七百圓位の者もある。此位の女になると茶の湯、生花等一通りは出來、碁も歌も少しは心得て、而も容貌が美でなければならぬ。偖此七八十圓以上六七百圓以下の身の代金が悉く本人又は親の手に入るかと云ふに決してさうでない。假りに二百圓の金を受取るとしても、周旋人即ち桂庵や女衒などに其一割は世話料として差引かれ、其他何の彼のと乘りもせぬ俥代まで取られ、六七十圓位は消えて終ふ殘金百三四十圓の內七八十圓は初見世の身著と稱し衣服其他の準備費に樓主に拂はねばならぬ、故に現金として親なり家

族の手に入るのは五六十圓以上にはならぬ、中等の者で此通りであるから、下等即ち七十圓や八十圓で身を沈める女となると慘目なものである。

△娼妓の生活　吉原遊廓の娼妓の生國に就て調べて見ると、一番多いのが新潟縣、次が東京、其次が岐阜、愛知、茨城、山形、三重、福島と云ふ順序になつて居る。新潟生れの娼妓は四百四十四人で福島の者が百〇七人である。揚代は大見世が酒肴附にて貳圓五拾錢、極下等になると五拾錢のもあるが、普通玉代三十五錢である。此の卅五錢の内半分は樓主が取つて殘りの半分即ち十七錢が自分の收入となる。此十七錢の内十錢は前借に對して樓主に納め、殘りの七錢が純然たる收益となるが、此で朋輩の交際、お白粉、髮結錢に至るまでを拂ふのであるから、一日に平均二人の客があつたとした處で、到底足りる者ではない。況んや流行らぬ妓になると、二晩も、三晩もお茶挽と稱して客が附かずに過す事もある、斯かる時にも自分の食料とし樓主に納める者は納めねばならぬので、其が借金となつて、益々其額が殖え、遂には六ヶ年の年期が八ヶ年となり九ヶ年となつて愈々浮む瀬がなくなるのである。又毎日樓主に納める金は前借金の元金に入れるに非ずして大抵は其利足になつて終ふ。故に何時までも前借金の減ることがないのである。彼等の食物は一日に二回で副食物としては日に一錢即ち一回の食事に五厘の副食物となる。上等の樓でも一日二錢以上にはならぬ、故に彼等の多くは營養不良に陷つて居る。中には自腹を切つて買喰をする事もあるが、錢のない者は客に肴を強請つて空腹を凌ぐのである。

△娼妓の病氣　彼等が病氣に罹つた時は病院に入れられるが、此病院は七八人乃至十五六人を一室に入れて共同生活をなさしめるのである。此時は休業して居るにも拘はらず矢張り食料を樓主に納めねばならぬので長く入院して居るものは其高が多くなつて前借金の方に廻り、どうしても返す事が出來なくなる。然し娼妓を病院に入れると樓主は甚だ損である故に、成るべく入院させぬ樣にして無理にも客を取らせる。假ひ病氣になつた事が明かで客に對して傳染の恐れがあつても、出來るだけ客に接しさせる。そして若も檢査を受けねばならぬ時になると、其前日若くは前々日に樓で依賴して置く醫師を招いて一時の止め藥を用ひ、其で檢査を受けるので、時としては檢査醫の方でも發見せずして濟む事がある。彼等の罹る病は勿論黴毒と淋病とが多い。更に畏るべきは彼等の多數が肺結核に罹つて居る事である。彼等の中容貌が美しく・ない爲に客付が惡く、借金は重なる。鴇母には叱られる。御內所の機嫌は惡し、其に身體は畏るべき淋病、黴毒、肺病等の不治の病に罹つて恢復の望みがないとなると、よい加減な相手を見附けて情死を決行するなどゝ云ふことになるのである。

△吉原の收益　利益を得るは勿論樓主である。次は鴇母、新造、番頭、仲働等の從事員と飲食物を樓に入れる所謂臺屋である。鴇母以下皆無給であるが、嫖客より貰ふ纒頭の割前が男女平均一ヶ月三四十圓より百圓內外、臺の物一枚二十五錢、臺屋には其三分の一即ち八錢を拂ふのである。

輿論の聲

廓清會起らざるを得ず

上毛月報

廓清會起れり。起らざるを得ざるなり、我國は武勇と淫風とを以て世界に名高しなど口さがなき京童は云へど我國過去の歷史現今の事實とは此の嘲笑を否定する能はざるぞ遺憾なれ。見よ我國の歷史は尙ほ武の歷史たることは隱れなかりしも、開國以來如何にやんごとなきあたりにさへ、貞潔の亂れ苦々しきこと多かりしを。長く我國風教の維持者たりし儒教は畜妾を是認し、佛教は出世間の教として甚だ倫理を重んぜず、若し之を重ぜしとせば唯所謂世間通途の義に準ずるのみ故に世間に畜妾の風あれば亦隨て其流潮に伴ふのみ、去れば一方に妻帶を禁じて家を成さざるの禪宗あれば、他方には妻帶は許すと共に多妻亦必ずしも非とせざる眞宗あるなり。知らずや今の大谷光瑩伯が數多の妾を蓄へ、私生兒を有して尙て活佛として一宗の長たるを妨げざりしのみか、眞宗中興の祖と稱せられし八代目蓮如上人すら亦多妻主義の實行者なりしことを。更に記せよ伊勢と云ひ善光寺と云ひ、其他有名なる神社佛閣の在る所は亦必ず妓樓の盛なる所なるを。日本は家族主義を以て誇るも、未だ家庭の神聖は保たれ居らざるなり、家庭の淸潔は實現し居らざるなり。果して英人の所謂ホームあるか、家族主義を國家の根本とし乍ら、而かも家庭未だ廓淸せられず、儒教と云ひ神道と云ひ佛教と云ひ歷史上家庭を廓淸し風紀を正すの權威なきは、實に由々敷國家の大事に非ずや。且つ日本の現行法律は未だ一夫一婦の倫を認め居らざるなり、憂國の志士之を憂へ其法律の改正を議會に提議すれば、大臣も議員も華族も富豪も其實行に於て一夫一婦の倫を蹂躪し居りて、堂々たる議會が其案を否決して、公然一夫一婦の主張に侮辱を加ふるは(近年衆議院は斯る非擧は爲さゞるも貴族院の暴狀は依然たり)年々の事實なるに非ずや。公私集會の席には臆面もなく藝妓と稱する淫を賣るの醜業婦を翱翔せしめて恬として耻ぢず、甚しきは國賓を接待するにも、此の節操を切り賣りする輩を用ひんとす。內には淫賣官許、實際の奴隷制度なる公娼あり、外には天涯地角至る所日本の醜業婦ありて、日本婦人の體面を汚して國耻を世界に曝らす。然るに當局者之を以て羞耻と爲さず、單に重きを花柳病豫防のみに置き(此の豫防策さへ甚だ覺束なし)之が爲に他に如何なる重大なる犠牲あるかを忘れて只管公娼制度を維持せんとす。近時內務省の警察醫たる醫學士栗本庸勝氏が『賣春の害毒及其豫防』なる一書を著して大に公娼の必要を唱へられたるが如き、亦以て其意向の在る所を微す可きに非ずや。嗚呼廓淸會起らざるを得ざるなり。此れ宗教、倫理、教育、風教、政治、社會、經濟、家庭有らゆる方面に至切の關係を有するの大問題なるなり。吾人は全く公娼を全滅し、一夫一婦の制度を確立し、大に日本社會に貞潔の德が重ぜらるゝに至る迄は、本會の叫聲が全國に反響し、其事業が益々發展して、長く休せざらんことを、切望の至に堪へざるなり。

遊廓移轉は斷行す可し

臺灣日々新聞

予は蔓延遊廓移轉の市民の問題となりしを喜ぶ者なり、臺北の發達は未だ蔓延遊廓を厄介視する程に達せずとは、非移轉論者の理由の一に數ふる處なるも。予は其然らざるを認む、市の現勢は最とも此方面に擴大せられつゝあるは事實なり。況んや市として唯一の淡水河を利用するに於て此方面を除きて他適當の地域なきに於てをや、現在の建物を新築若くは修繕するに當て、今後若干年間は移轉、又は取毀を命ぜざる可しとの當局の默諾あるが如くなるも、現在の建物は

隨分古く且つ粗にして實に遊廓らしからざるに於て決して惜む可きを見ず、同じく新領土と雖も朝鮮京城の如きは更に建築宏壯而かも廓内の整然たるものありと聞く、遊廓の建築を以て市の美觀を添ふるは餘りに市の名譽にあらざるべし雖も、既に其營業を公許する以上は今少しく建築の美觀を要す、足一度紅粉遊廓を踏む者誰か其不快を感ぜざる者ぞ、予に現在遊廓の建築及び體裁共に甚だ粗雜なる點に於ても、亦た移轉改築の時期たるを主張するものなり、聞く當業者共同の貯蓄莫大なるものさへありと、況んや移轉を斷行するに當ては、相當の賠償を爲すも可なるに於てをや、若し當業者が自ら進で、市の發展に顧みて移轉を提議するの日の如き、恐くは百年河淸を待つの類ならんか、予は彼等の賤業なるを以て故意に虐待する者にあらず、而も彼等は他の正業者の如く堂々同一の權利を主張するは、寧ろ他の同情を沽ふ所以に非らざるを思へ、予は市の今後に於ける發達の趨勢を助成するの必要上、紅粉遊廓の移轉は速かに斷行す可しと主張する者也。（八甲庄民）

早大學生の廓淸運動

福音新報

▲近日の出來事で我らが最も痛快に感じたのは、早稻田大學々生が學校附近に魔窟の增加し、學生中其の誘惑に陷る者の多さを憤慨し、大擧して淫風掃蕩の事を企て、大に其の効を奏したことである。同大學矯風團今回の擧は實に一種の十字軍であつて、數十人若くは數百人、伍を組み、隊を成し、勇壯なる校歌を合唱して敵地に闖入した時は、魔軍爲に色を失ひ、喫驚狼狽の狀見るも笑止の極であつたといふ事である。世或は此の如き擧動を見て、聊か不穩の事のやうに思ふ者があるかも知れぬが、非常の場合には非常の手段を取る必要がある。而して非常手段は多少不穩にわたらざるを得ない。我らは其の不穩の難ずべき所以を見ずして寧ろ其の快擧の稱揚すべきを見る。思ふに乃木大將の悲壯なる最後が軍紀振肅の上に及す影響よりも、早稻田矯風團の快擧が學生風紀振肅の上に及す影響の方が更に大きいであるまいか。

▲團體の力は强いものである、學生の團體の力は特に强いものである。露國あたりでは、大學生が一團となつて政治上の運動を始める時は、殆ど天下を動さんとする程の勢力を示し、廟堂の有司錯愕恐怖して、終に鎭壓の爲め軍隊の出動を見るに至る事もある。學生が政府顚覆などのやうな內亂的の騷動をするのは、善い事とはいへぬけれども、其の常に天下國家の事を憂ひ場合によりては慨然劍を按じて起つといふ氣膽に至つては、誠に頼母しいものといはればならぬ。我が日本に於ては、大學生などが憤起せねばならぬほどに政治上の混亂を來して居らぬから、此の點は幸である。併し社會風敎の事に於ては、意氣あり、膽力ある學生の奮起を促すべき問題が幾らもある。今回早稻田の健兒が企てた魔窟掃蕩運動の如きは即ち其の一つである。

▲學生風紀の振肅を圖るには先づ元老大官や、紳士紳商などといふものの風紀から振肅して來る必要がある。日本に於ては放蕩淫樂の手本を示す者が常に社會の上位に立つて居て靑年學生の遊惰蕩心を誘ふやうな事を爲て居るから、風紀振肅は先づ此の上の方から行ふて來ればならぬな、我らは乃木將軍が英皇戴冠式から歸つた時、日本上流社會廓淸の爲に力を盡されんことを希望し、其の旨を少しく本欄に於て述べた事がある。大將のやうな嚴格な人が、國寶を破壞するやうに、大事な千金の身を自ら殺さないで、右の方面に全力を盡しつゝ餘生を送られたら、定めし見るべき結果が有つたであらうに洵に殘念な事をした。風紀振肅といふ事に於て申分なき資格を有し、十分に其の權威を持つて居つた大將が、彼んな風にして俄に逝かれたのは、惜しみても尙餘りあることである。上流社會にも少しは嚴格な面をして諸人を憚らしむるやうな人が無いと、好い氣になつて誰憚らぬ放蕩三昧を增長するかも知れぬ。

▲我らの理想から言へば、上流社會へも學生の矯風團體が進軍突擊し、待合

や妾宅に出入する上流人士の馬車や自働車を擁して之を詰責する位になつたら面白い、併し學生は巡査や憲兵とは異ひ、學問の時間が大事だから、始終其麼ことを爲て居る譯には行かぬ。されど學生間の矯風は是非共學生自身が行らねばならぬ。警察の力で魔窟の取締を嚴重にして貰ふよりも、學生の方で魔窟に行く學生に制裁を加へる方が、よつぽど効能がある。今回早稻田の矯風團が風紀衞隊を組織し、三名乃至四名一隊となりて魔窟の前を巡警し、學生の登樓する者を擁して訓戒を與へ、之を本團に報告して其の制裁法を議したなどは、最も其の手段の宜しきを得たもので、其の捉へられた學生は、警官の說諭を受くるよりも更に慚愧を感じ且つ恐怖の念を生じたであらう。我らの希望は、都下各學校の學生中健全な分子が一大攻守同盟を形成つて、不良少年や遊蕩學生に對し、酷烈峻嚴なる制裁を加ふるやうに爲たいが、目下之を實行する事が難いなら、先づ各學校個々に於て實行するやうに爲たい。早稻田學生今回の快擧は天下に魁して、淫風絕滅の十字軍を起したものである。思ふに他の學校に於て風を聞き慨然として起つ者が續々相接ぐ事であらう、さうなれば天下の事が大分面白くなつて來る。

▲之につけても考へればならぬなは、基督敎主義を標榜する學校の問題である。此の種の學校はもと基督敎主義の精神敎育を施すといふのが、其の目的であるから其の學生の氣風の純潔にして、風紀の嚴肅なる一點に於ては、他に對して模範的であらればならぬ筈である。然るに近來は專門學校令や、中學校令やに準據して制度や組織や外形上の設備やを整頓するに重きを置けども、其の精神的の方面に於ては、効果の見るに足るべきもの甚だ少きやうに見受けられる。此の種の學校に入學した爲に、何れだけ學生が敬虔の念を增し、其の氣風を高めて居るか。中には例外もあらうが、我らの耳聞目睹するところでは、此の點に於て甚だ心細く感ぜらるゝ事が少くない。中には敎師其他の者の品性に就て親しく其の弱點を見る事によつて、基督敎に對する反感若くは輕蔑心を生ずるに至る者もある樣子である。何ら宗敎的感化を受けずに去り行く者は大多數であるかも知れぬ。特に或不良少年の類が途中から入學し來つた場合に、校內に之を基督敎化する力が足らないで、却て彼らの惡風が他の善良な分子をも壓倒せんずる勢を示す事があると聞いて居る。なさけない次第ではなからうか。(不眠生)

大阪府令と貸座敷

大阪朝日新聞

曩に大阪府令を改正して娼妓と、貸座敷(抱主を含む)との花代分配を明白ならしめ、一々明細簿に收支の計算を記入することにせしため、娼妓の揚げし花代に對し、何の胡麻化しも利かぬやうになりたれど、松島の如き居稼店は花代を娼妓と店に分けるだけにて左したる問題も起らざりしかど、難波新地の如きは呼込茶屋と扱店、抱主、娼妓の四つに分配する必要あり、大に困り、結局茶屋と扱店と娼妓の三つに割り、抱主は娼妓より一箇月十圓の席料、七圓內外の食費其の他少許の雜費と貸金の利子のみを所得とし、外に衣裳代と稱して三十圓內外を取り居たり、然るに其の筋より一箇月三十圓の衣裳代を取るは不正なりとし、過日抱主に對し說諭する所ありしかば、抱主はいよいよ利益が少くなり、收支償はずとて二三日前某辯護人に賴み詳細の事情を具したる書面を警察部に提出したり、警察部にては取調中なるが、抱主と時込茶屋の中に介在する扱店が、花一本につき一錢二厘といふ手數を取り居るは全く無意味につき場合によりては、扱店の營業を禁止し其の所得だけを抱主に與へ娼妓衣裳代の負擔を輕くなるやうにせんかとの內議もある模樣なり。

大阪の附近に候へ共、兵庫縣下の尼ケ崎と申處有之、其處にマッチ工場を經營せらるゝ小森純一氏と申す方は、公娼問題には多年盡力せられ、今迄に四五回も同地に公娼遊廓を設置せんとせしを、いつも强硬に反對し、尼崎には小林の翁が生きて居る間は迚も遊廓を置く事は出來ぬと申せし位にて、今日迄其强硬なる態度に尼崎町は種々の運動、政府の危き方針よりも救はれて、踏みこたへ居候。小森翁は每月廓淸を警察署長學校長町長などへ送りて可成有益に働かし居るとの事、隱れたる處に同志もあらん、同情者も澤山有り、之を開拓致すは中々忍耐を要する事に候。(林歌子)

雜誌の雜誌



（宗教）

●歐羅巴の宗教界を視察しての感想

中村望氏

▲永くヨーロッパに居る日本人 にきいて見ると、歐洲に於ても近頃は宗教心が薄らいで居ると いふ人が多いのである。實地私共の見る所でも日曜日に凡ての家庭の人々が教會へ集ると云ふ程ではないが併し乍ら歐洲 各國共に宗教心薄らいで居ると云ふことは私には信ぜられない樣な氣もするのである。

英國の倫敦の如きは、日曜日には煙草屋の外は開店して居らず、公園も午後二時からでないと開園せず、教會の鐘によつて都人士が教會の門から吞吐さるゝの外市中往來するもの少なく、世界中で一番賑はしい所が、此の日は一番寂しい所となるのであるから、私共に殊に著しい感じを與へたことである。

▲丁抹の如き は、近年 教 會に集まる信者の數が非常に増加したと云ふことである。その原因を尋ねて見れば、今より三四十年前、同國に一人の有力な無神論者が現はれて、切に眠れる當時の宗教界に冷嘲熱罵を浴せかけ、その忌憚なき言語を以て大に僧侶幷に信徒を攻擊した。之が刺激になつて國民一般に宗教に對して眞面目に疑ひ始め、或者は全くの無神論者になつて了ふたが、多くの者は此の疑が反つて幸となりて熱烈な而も根底ある信仰をうるゝはなつた、從て教會に集まる信徒の數も次第にふえ、同國の宗教界は大に活氣を帶びて來たのであつたといふことである。

▲獨乙のカイゼル は宗教についても非常に熱心な御方で、日曜日には必ず教會へ 出 席さるゝのみか時々は宮中に於て、若くは御旅行中に於て、御自分で說教を試みらるゝこともありとのことである。又殊に兒童に宗教心を吹き込むことには御熱心で、プロシヤの小學校令に於ては、小學校の教育は僧侶の監督の下に置かれてある。

歐洲を旅行して最も眼につくは教會の大きくて立派なことである、觀光客は何所に行ても先づ教 會 が見たくなる樣になる。東洋に於ても寺院は觀光客の注意を引いて居ることであるが、歐洲に行て殊に此の感じが強よかつた。日本ではお寺と云へば、平たく大きなものとなつて居るが、歐洲では教會と云へば非常に高いものになつて居る、市街の中で最も高い建物は教會である。

ローマのサンペートル、及キンパウル教會の如きは實に莊嚴で、とても日光などの比ではない。床が悉く油繪よりも立派の玻璃のモザイックで出來て居て、柱は皆大理石である。

▲歐洲では日本の名刹 が深山を撰びて、其所を靈地となすに反して、名刹といふ名刹は悉く市中雜沓の俗地にあることなれど、一度びその堂內に這入ると今までと光線が丸で違ひ、空氣が違ひ、燈明の光も亦一種の光彩を收つので、忽ち神々しい感に打たれる。之には窓に使用してある色玻璃の力が與かりて大に力あるのであることを私は今回の歐洲行でシミヾヽと味つた。

そこで無信仰者でも、異教徒でも、かゝる名刹の中に入りて、一種異つた光線の中に立ち、高い丸天井の下で自分一人の足音が堂內にひゞき渡るを聞き而して又薄暗き燈明の下で懺悔せるもの、若くは神前の拜伏して動かざるものを見ると、心自ら改まらざるを得ないのである。

▲公德の進歩に就て 歐洲を視察した人は、何人も敬服して居るやうである。其の原因は分らぬが、併し公德を維持し且つ之を進める上に宗教が與かりて大に力ありしこと、又將來もあるべきことは、疑のなきことゝ思ふ。基督の教へた愛の精神、それがドンナに歐洲人の公德、私德二つながらを進步せしむる上に、力あつたか知れない程であると思ふ。歐洲では凡

ての人が、少なくとも其の少年の時、日曜學校か、家庭に於て、宗教に養はれて居る。されば後年教會へ行かなくなつても無形の神の前に恐れて、人の見ざる所にありても自制すると云ふ精神があるやうである。之が歐洲人の公德心の多い一原因であらうと思ふ。彼等は概して今日の我國人よりは多く宗教に觸れて居る又歐洲の政治家であるとはいへぬ。しかし教會へ行かぬ政治家でも概して宗教心は持て居る。ソコで彼等は眞面目である、主として正義の爲に爭ふて居る樣に見える、かくて歐洲人の公德心は源を宗教に發して居るとの信念をいよ〳〵强めざるを得ぬのである。（道）

●傳道と修養

▲傳道の成果　は俄かに收め難し、元來傳道とは、單に形式的に多數の人々をして教會に加入せしむるの謂に非ず、人を全體として改造することなれば、傳道事業は由來容易なるものに非ずとの次第は、我々の前號に述べたる如くなれども、近年國民一般が宗教に對する要求頗る切實なるものあるに拘はらず、基督教會の進歩が依然として思はしからざるには、傳道は由來容易なるものに非ずと申すことの外、何等か基督教會内に國民の要求を滿足せしむること能はざる原因之れあるには非ずや。此は我々の最も眞面目に考ふべき點にして、殊に説教家たるものは先づ思を爰に致さゞるべからず。

▲米國の説教家ギブソン博士　曾て或る集會の席上にて「人もし淸水を滿たせる桶を携へて群集に來らば、渇するもの爭て往きて飲むべし、然れども若し空桶を提げ來らば彼等は其の空虚なるを見て逃げ去るべし」と言ひしが、ムーデーは此の言を引て「吾人の働に成功なき所以は、吾人が空桶を荷ひつゝあるに由れり」と言へり。試みに問はん、今日多くの説教家の頭は空桶に類せずや。ジヨン、ウエスレーは「説教者が人を導くこと能はざる重なる理由は知識なきがためにして知識なきは怠慢なるがためなり」と言ひて、當時の説教家を誡めたることありしが、説教家の憂は怠慢にして、若くは實務に忙殺せられて、知識を養ふこと能はざるに在り。我等は我國今日の説教家を以て、怠慢にして知識の修養を怠りたりといふものに非ざれども、實務に忙殺せられ若くは其の他の事情のため知識の修養足らずといふは疑なきが如し。之れを空桶と云はんはあまりに酷なれども、自ら淸水を滿せる桶を携へたりと自信し得るもの果して幾人ありや。我等が群集を引く力のなきは思ふに此邊に在ることならん。知識の修養忽にすべからざるなり。

▲然れども更に問はん　我等の靈性は更に多く空桶に類せずや。我等の中には言論に巧なるものなきに非ず、學問に達したるもののなきに非ず、殊に教會を治め事務を理する材幹を有するものは比較的多きが如しと雖も、徹底せる信仰、高潔なる品性を有するものに至ては極めて少きには非ずや。見よ、教會は「凡て疲れたるもの又重を負へるものは我れに來れ、我れ之を息ません」との言を説き乍ら、自ら疲れ自ら重荷を負ふの觀あるに非ずや。見よ、説教者は「汝等心に憂ふる勿れ、神を信じ又我を信ずべし」との語を傳へ乍ら、其の顔には、一種憂愁の氣を帶べるに非ずや。見よ、信徒は「何を食ひ何を飲み何を衣んとて思ひ煩ふ勿れ」との語を誦し乍ら、尙衣食のために煩悶するに非ずや。基督教が愛の宗教にして基督が愛を示現なることは何人も之を首肯すべし。然れども之が證者たる我等は如何に之を實行せりや。教會には兄弟相鬩ぎ姉妹相訴ふるが如きこと全く之れなかるべきや。斯く考へ來る時は我等の傳道、我等の生活は宛も空桶を提げて群集に臨むが如きものあるを思はずんばあらず。世人が其の空虚なるを見て、逃げ去るも亦何ぞ恠むを要せん。爰に至りて我等は靈性の修養の忽にすべからざることを最も切實に感ぜずんば非ず。（護教）

●傳道と勤王心

山縣牡杜三

我が國に於てはキリスト教の勤王心に關係する教義を研究するは、斯教の消長に偉大なる影響を及ぼすものであると思ふ故に我が國人にして今日牧會傳道に任ずる者は、聖書の講究と共に國書國典を研鑽し、兼れて國家成立の要訣を極め措かざるべからず。若し我が國人にして、世界の大勢を達觀し廿世紀の學殖に富むとも、我が建國の何たるを知悉せず、我が國風、國情、國體に造詣する所なきが如き牧會者傳道者程、無用なる者はあらざるべし。我が國の布教、國民教化に内國人なる牧師傳道師の必要なるは、祖先傳承の勤王心を有するが爲めなり、然らずば外國宣教師にて事足りぬべし。

キリスト教の傳道發達史を鑑るに、傳道の門戸は孰れも其の國民性の長所より啓かるゝものなり、而し

て其の長所は所謂短所にして其所に缺陷存すればなり。其の間隙に即ちキリストの聖旨を國民の心裡に貫徹せしむる傳道の門戸なり故に古、深邃なる哲理を生命とするギリキ人の特性はキリストの神智に感服し。嚴正なる法理を尊重するロマ人の特質は神嚴なる神定の律法に敬服し、終に敎化徧きに至つたのである。我が國に在つて、神の大愛を說くも、十字架の救を告ぐるも、乃至復活の眞理を證明するも、未だ以て國民性を飽かしむるに足らず。我が國民天賦勤王心は國民の誇りて長所とする所なり、其所が即ち短所にして間隙の存す所なり、傳道の新門戸は其所に開放せられあると謂はざるべからず。

抑も勤王心なるものは、我が建國以來二千五百有餘年繼紹したる國民性なり、拔くべからず奪ふべからざる立國の根本的精神にして國家と共に永久に保留する國本的固有性たり。此の天賦的國民性なる勤王心は國家の生命なり、其の國家的生命と融和合同し得る所が、傳道の新門戸たるべき者也。因つて慮ふ我が上下一般國民の心底に深くキリストの聖旨を貫徹せしめんとならば、宜しく其の門より入らざるべからず、吾人の使命を果たす途は其所にあればなり。斯る機微を察し、主の使命を完せんと欲せば、豫て其の準備する所なかるべからず。古人の言へる「人を敎えんとする者は宜しく先づ己を敎ゆべし」とある如く、召されて牧會傳道の大任を荷へる者は、自ら勤王家たらんことの修養を要す。敢へて謂ふまでのことにあらざれども故乃木將軍の純忠殉死は、勤王心の精華にして、吾人キリストの僕たる者に取りては他山の石なり、授つて以て吾が鈍れたる宗教的精神を切磋し琢磨し以て他日の用に備へんとを要す。（基督教週報）

●神秘なるかな人の子

神戸敎會牧師　米澤尙三

▲私は人間てふものは不思議な者と思ふ自分ながら自分が不思議である。吾人々間は自分より以外の天地を廣く批評する研究するとはソレは〳〵細かい所まで觀察が届いておるのである。顯微鏡を以て細胞纖維の微を知る。望遠鏡を以て廣く數萬里の所を知つて居る。斯く我以外の世界を知る人間が自分は他のものから知られて居るだらうかと尋れて見ると何者にも知られて居らぬ。外なる世界は吾々に對しては全く暗愚である。外からは我に交渉して來ないのである見て貰ひたくとも見られない。何處に訴へても聞いてくれない。胸襟を披いて語つても之に應じてくれない。吾々は此の廣い天地に唯一人立つて居るのではないかといふ寂寞の感が起る。彼處に聳へてる比叡の山は其絕頂は頗る寂寞である。併し其麓はナカ〳〵賑はしい人力車も通る、牛も通る、百姓も通る、亦種々の聲も聽へるが彼の絕頂、即ち比叡の比叡たる所は只獨り天に聳へて何ものにも交渉せずに千古の神秘を守つて居る、人は此の意味に於て神秘の雲の中に我を秘して居る。吾々の後を見れば自分よりも下等なる生物が居るが、我左右即ち同列には何物も居らない一さい沒交渉である。



（一）こんな內職する者もあつた（地獄の沙汰も金次第）

▲人は人として進化の絕頂に立つて居る

あの比叡の嚴なる姿、あの愛宕の偉なる趣が京都の景色を添へて居る如く、ミステリイの雲を纏ふて宇宙に立つ吾々人の子は實に此の天地の美觀である。吾々は犬や猫と同一世界に共同の生活をして居る。そうして彼等は多少我々を知つて居る。斯くする時には我を打つ、斯くする時には我れに食物を與へる位ゐを知つて居る。併しながら人の人たる、我の中に秘密、何物も犯し能はざる內心の權と云ふものは依然として神秘の中に包まれて居る。

諸君吾々のミステリイは唯之れのみならず、お互各自に神秘なるものがある。俗に三つ子の魂百までと云ふが實に一旦以て生れた性質は何時までも續けるのである。同じ家庭に同じ親に育てられながら、三人五人の兄弟が皆同じ發達はせない、皆違ふて居る。諸君が如何に私に同情を表せられても私の代理となつて下さる事は出來ぬ。こゝに人の子の神秘がある。亦豪

いものがある。之が個人性の尊い所である。故に親が一たび其子を失ふ時には、あとに幾人子が與へられても死んだ子に代はるべきものでない。そこに

▲誠に貴い何とも言はれぬ神秘がある

何物も此の吾々の神秘を披く事は出來ぬ。或人は自然美は眞く我の神秘を開くと言ふ。亦或人は戀愛こそ此の戸を排くものと言ふ。併し此の秘密の庫は自然美や戀愛では拓かれるものではない。段々考へて見ると吾等の秘密を破るものは宇宙の奧にある或者である。宇宙其自身は人間よりも以上の秘密である。天地の總代は神秘である。其の神秘なるものと吾々の神秘とが何か相照し合ふてなる樣に思はれるのである。天地の愛と我が内なる愛、宇宙の神秘と吾々の神秘とが相呼應するやうの心持がする。「父の外、子を識るものなく子及子の現はすもの丶外に父を識るものなし」とは基督の宣言である。此の神の神秘と吾々の神秘とが相照應して來る時に宗　の火蓋が切られるのである。

諸君斯く神秘なる人の子なもし空間に比ぶれば如何にも微少であるとの感がする。八分時に九千二百萬哩を走る光線が、今此宇宙の一番違ひ星から地球にまで光を通ずるには二萬五千年を要するとの事である。なんと人は此の空間に比べて微少なるものではないか。吾々の體を解剖して見れば吾々は有脊動物の一に過ぎないとを知るのである。そうして其先祖と云へば、しり尾が下がつて、山の奧を驅け廻つてたらしい。斯くの如く小さい、強い、つまらぬものでありながら一面から見れば神秘なるものを以て居る。

▲諸君のお持ちなさる靈妙なる精神は

一瞬間にして東京銀座を見ることが出來る。一瞬間にして太平洋を渡つて亞米利加の大陸に上陸することが出來る。又一瞬間にして歐羅巴大陸に渡り西比利亞線で再び此の京都へ歸る事が出來る。なんと神秘なものではないか。身は有限だが靈は無限である。吾々の身體の丈は大抵五尺二三寸右手を伸ばして二尺四五寸、左手を伸ばして同樣、股を開ひても數尺、して見ると一人の人が此の空間を占領する範圍はまづ五尺四方である。なんと慘な者ではないか。しかし我が活動と感化の及ぶ限り我の存在の範圍であるとして見ると、偉いものである。私の聲は向ふの壁にまで達するなら私は其壁にまで存在して居るのである。私の考が向ふの聽衆諸君に解る、耳に入る、多少は感服する人もあらうそうすると私はあの隅にまで存在して居るのである。もし夫れ諸君の活動、思想、感化が他人に及び更に日本全體に波及し、世界に及ぶならば、諸君は空間に於ては五尺四方しか存在し能はざるも精神界に於ては無限の世界にまで存在することが出來る。

▲斯く考へ來れば人間は實に豪いもの

であると思ふ。併し更に不思議と言はればならぬものがある。即ち斯く神秘なる人は抑も何處から出で來りしかと尋れたら其れは親よりと答が出る。其親は其親はと段々本源に遡ると我々の先祖が地球の上に棲み初めたは二十五萬年前とのとであるから。我は二十五萬年の永い流が我の背後にあると知るのである。しかし更に〳〵幾萬年の昔より滔々として流れつ丶ある此の生命力が顯れたる我である。そうして此の我の本たる生命の力は更に永遠の未來に向つて進み行く。五十年の生は實は永遠の過去と永遠の未來に根ざしてある。なんと諸君神秘なものではないか。吾々の信ずる耶蘇は此の神秘な人の子に因つて現れ來りし宇宙の大生命力を何んと觀ぜられしか。彼は之を神として吾人に示された只冷然たる勢力の神、生命の神のみではない、愛の力であり、犧牲の力であり、十字架を敢て忍びて以て吾々人の子の心は其愛を徹底せしめし恩愛の父と觀ぜられた。

此の溫き神の御心が吾々の心に徹して自ら我の尊嚴を自覺する處に人の眞生活が刱まる。吾人をして自己の神秘を自覺せしめよ。そうして其神秘は天地の神秘に相通ふものなるを意識せしめよ。こゝにアバ父と叫ぶ子たる靈的生涯が存するのである。保羅の所謂「我儕は神の中に生き、また動き、また存する者」なる深い心靈の實驗に入りたい。（基督教世界）

○教　育

●斬新なる道德教育

▲米國の少年共和黨

紐育より五十哩の片田舍

▲一個の模寫的國家

フリーベルに數萬坪の地を拓いて建てられた學校がある。設立者はウイリアム、ジョーヂ氏、千八百九十五年同氏は初め不良少年感化の目的を以て一つの定見を提げて創めたるが後に至つて同一方法が一般少年子女を善良なる市民養成に適用して有效である事を知つて擴張したのである。學校には相違ないが之を學校と稱

せずジョージ少年共和團と稱へ、同校を米共和團を縮小した一箇の模寫的國家として其中に立法部及司法部より成る共和的政府を設け生徒中より大統領を選ぶ、選ばれた大統領は判事檢事巡査等を任命して團内の安寧秩序風紀を衛る、そして生徒は呼んで市民と稱へるのである。

▲小市民の刑罰　若し此市民に此小共和國の國政を紊る行爲をなする者があれば巡査は捕へ來り之を判官に委ねて公判に附する、市民は凡て傍聽を許されて罪囚は構内の獄に投ぜられ三五日の刑を受けるのである。刑期滿ちて出獄すれば三日に對する一週間、五日に對する五週間の監視を受ける、監視中は一切の市民權は褫奪されて小市民は此期中を最も苦難として此間に悔悟するのである。ジョージ氏は亦此監視間を以て最も有力な效果のある時機と信じてゐる

▲自治自活の風　共和國縮寫の學校内には一般に勞作は人生の根本義なりとの精神が橫溢して自活自治の風紀が普れく行き渡つて居る。小學と中學の普通教育は十分に施された上に午後の半日は專ら職業教育を授けて實際の勞作に從事せしめる、職業別には土木、印刷、大工、家具製作、商店、銀行、洗濯屋、パン屋に至る迄備はつて、兒童が小學教育より中學教育に移る間の最も專門的智識に向ひ得る好時機を捉へて生徒各自の望む業に就かせる。其勞働賃金は年齡と職業の程度と技術熟練の程度とによつて差異があるけれど一時間約十仙で午後の半日の五時間が勞作時間である。得た賃金は構内の銀行に貯蓄する事とし銀行には又少年銀行家が事務萬端を取扱ひ着々として一般に行はるゝ金錢出納の事務が滑りなく捌けて行く。斯く道德教育によつて自ら衛る可き事と、國家に對する義務社會の制裁とを目の前に見て一方に自治の念を養ひ職業教育を受けて自活獨立の精神を鼓吹せられ兼て政治及び社會組織を學び得たる年少市民は、軈て第二の米國市民として政治、社會、道德に關する智識を應用して健全なる共和國を樹立し得るので、ジョージの識見空しからず、人々の是認する所となつてウヰルリン、ギル氏は之を殖民地の教育に應用して好結果を收めてゐる。即ち新領地玖馬に至る所に此種の學校を設けて、學校每に市長を選び市政を校内に敷て、新領土の人民に共和政體の模範教育を施して居る、近頃歐米國に於ても漸次に此方法が行はるゝ相である。

▲殖民教育に應用

●電氣仕掛の教育

▲低能兒と女子の福音

最近に紐育から送られた新聞によると九月の新學期から紐育の小學校では教育上の新發明である電氣應用の新教育法を實驗しつゝあると報じて居る。

▲人爲的の刺戟　實驗に供せらるゝのは紐育小學校に散見する低能兒五十名で此等の生徒はニコラ、テスラ氏の發明した電氣仕掛の教室で六ケ月間教育されるのであるが其教室は壁にテスラ氏發明の電流が通じて居て生徒の腦髓は此の電力によつて人爲的に或種の刺戟が與へられ、漸次著しき心身の發達を示すといふのだ而して此の實驗に賛成したのは紐育市視學として有名なマキシウエル氏及コロンビア大學のプラン博士で、若し今度の實驗の成績がよければ米國の教育法は一大改革を行ふであらうと云ふ。

▲無害の興奮劑　心理學者は斯くの如き電氣の刺戟を恰も酒精の如く一種の精神的興奮劑と見做し、而も電氣の刺戟は心身に無害であるといふに一致して居る。發明者テスラ氏の雇つて居る一助手は性來稍普鈍な男で電氣を扱ふにもノロマで困つた、併して暫く電氣を取扱ひ、從つて電流を受けて居るうちに極めてその働作が敏活になつた。テスラ氏は同じ事を練習する結果職業的に敏活になつたことゝ思つて居た。然るによく注意して見ると此男は電力によりて腦神經が活潑になり、萬事理會が早くなつたので殆ご別人の觀をなしたといふことである。

▲實驗の結果　テスラ氏は瑞典の首都ストックホルム市に於てスバンテ、アーヘニウス教授の管理の下に實驗を行つた此の時は五十人宛の生徒を以て甲乙の二組を作つた。而もその百名の生徒は年齡、身長、體量、體格、成績共に相似たるものを選んだ。甲の組は電氣教室に於いて教授し、乙の組は普通の教室で甲組と同樣の教育を施した。六ケ月を一期として實驗の結果が發表された。即ち電氣を施した甲組の生徒は身長二吋半を增し之に對し乙組の生徒の身長は一吋四分の一を增加したばかりである。又、甲組の生徒は乙組のよりも體量及體力共に著るしき發達を示した。又、精神上の差異としては甲組の生徒の學力成績は平均九十二點であるのに、乙組の生徒は七十五點しか取れなかつた。更に滿點(百點)を得たものは甲組には十五人

を出し、乙組からは九人しか出なかつた。概して甲組の生徒は乙組の生徒よりも比較的活動的にして疲勞せず、能力の敏捷と忍耐力の增加との點に於て勝つた結果を示した。

▲テスラ電器構造　此電氣應用の器械を發明者の名をつけてテスラ電器と呼んで居る、其一次線輪は粗線輪を旋轉して作つたものであるけれども普通電氣に使はれるX線輪とは違つたものであるX線輪では五十乃至十五萬ヴオルトの電力を得るのが關の山であるけれども、テスラ線輪は優に幾百萬ヴオルト電力をも起すことが出來る。之を教室に用ふるには何の造作もないことで生徒にも出來る、而も極高度の電力を間斷なく送るので教室内の空氣は直に電氣に飽和されてしまふ。X電線は人體に觸れると彈丸のやうな穴があいて危險を伴ふがテスラ電線の電力はX線よりも遙に高度であるけれども人體に通ずるだけである。醉ふだけ浸みるだけで恰も電浴といつたやうな具合で何の害も與へない。

▲雷器の掛け方　テスラ電器のかけ方には三方法ある。即ち(一)電流の元又は末端を以て直接身體に通ぜしむる法。(二)教室内の電氣を施したる一定の場所へ生徒を交代に導き電氣に浴せしむる法。(三)生徒一人宛に感電せしむる法。此の三つである。紐育に於ける實驗には以上の三方法が併用せられるけれど第三法は必要を認めた場合に於てのみ行ふのである。而て電線を隱し、或は電氣が仕掛けてあることを教師にも生徒にも知らせないで實驗してもその成績は十分に擧げることが出來る。

▲プ博士曰く　「女子は身體の構造といひ、心臟の高まり具合の早い點と云ひ、腦量少く皮膚薄きは確に電氣教育の必要を示すものである。舊慣に囚へられて新發明を呪ひ、之を發明者が不可能の夢想狂であるかのやうに疑惑するのは愚な話である、何でもやつて見なくては嘘だ、先づ紐育では低能兒五十名を之が爲めに提供したのである。六箇月後の成績に徴したい。果して低能兒及女子教育の福音であるか」とはプラン博士の述ぶるところである。尚テスラ電器は教室に据附けるのに約百弗しかいらないといふことである米國で人間の身長を延ばす器械を發明したのは今や一昔のことである、今度の心身を發達せしむる教育電器が好成績を擧ぐるならば電氣教育のない學校や電氣のない貸家などは時代後れとして五年後には文明人が相手しなくなるであらう。確かに教育上面白い考へである、人類敎化の爲めに成功させたいものではないか。(西山悊治氏談)

●男女學生の理想

▲結婚に現はれし　相知れる某署の高等視察と偶然日比谷公園に邂逅す視察は記者に向ひ「帝都の書生の材料として頗る珍なのがある書いて見てはドウだネ……種子か其の種子は云はヾ阪谷芳郎や加藤高明や末松謙澄やをモヂッたものでツマリ閨門成功者の愛だネ」と語り出せし一條の物語左の如し

▲法學士の候補著　先づ實例から始める、先般新聞に出て居たが某侯と云ふ大元老がある子福長者の聲世界に高い、其令嬢が日本橋の或豪商の若旦那と結婚した。此の若旦那は慶應を卒業して米國に遊學した、ハイカラだ、父母とも先年死んで今は其巨萬の富の若旦那となつて居る。扨て某侯の令嬢との結婚談が進捗すると若旦那の家には大騷動が起つた夫れは改革派と非改革派との衝突だ日本で一流と云はれる辯護士連までが兩派の顧問になつて或は此の結婚を賛し或は反對した桂公や井上侯までが口を出したとの評判だ何を云ふても金のある所には色々の大將達が口を掛けると見える。此の騷動の最中に於て常に若旦那の爲めに同情し且つ盡力したのは若旦那の令妹だ斯くして愈結婚は成立して後若旦那は令妹の厚意を謝して數萬の資產を與へ且つ其希望する所を聞いたら令妹は臆する所もなく下の如き注文をした、令妹は某高等女學校の卒業生だ「私は別に希望と云ふ程のこともないが何時も兄様よりか偉い人を夫にしたいと思つて居る、兄様は慶應を卒業し、義兄(姉婿)は早稻田の卒業生だ、夫れ故私は帝國大學卒業の法學士と結婚したい」と云ふ、夫れはいと易いことなりと云ふので若旦那から人手を經て婿選みに掛ると驚いた未來の學士は勿論現在の學士達競つて結婚を申込んで來た其寫眞だけが何十枚と令妹の手許に山をなした、夫から先のことは知らぬ。

▲持參金附の嫁　今の話で男女學生の半面が多少理解されるだら今日の男女學生と云ふものは皆な是だ。女子敎育など云ふと結構な樣でもあるが眞の心中を解剖すると實際嫁入條件の充足の爲めに女學校卒業證書が入用なので學問などは入要はないのだ眞に學問の必要を感じて居るのは餘程の醜女と不具者許りだ。

男學生は嫁取りの學問ではないが學問を材料にして持參金附きの嫁を詮索して居るのは爭はれぬ事實だ。此の傾向は一ツ橋の高等商業學校が最も甚だしい、高商の學生は寄ると觸ると何處にか持參金附はないかと云ふ話し許りして居る。段々世の中は妙になつて來る。（朝日）

（社會）

●東京の巡査

▲どうして巡査になる

社會が追々進歩するのに連れて犯罪なども却々巧妙になり、探偵小說を讀むやうに手つ取早く筋が運べぬので、警察の方も益す整備の必要が迫つて來る。何と云ふても二百萬の市民が枕を高うして寢られるのは警官のお陰だから夫れ丈け警官の方は骨の折れるわけだ

▲巡査に成る迄　开で警官も今迄のやうに小學校を卒業すれば直ちに巡査の試驗が受けられると云ふやうな呑氣な時代でなく自然素養のある者が殖えて行くと云ふ傾向を呈して來た。現今巡査の採用試驗は每週月木の兩日で志願は何時でも出來、此の兩日に試驗をする程度は中學の二年位の算術は比例、夫れに作文と地理（日本）の課目がある。之れに合格すると三田の敎習所で二箇月乃至三箇月の敎習を受け警視廳の方に缺員がある每に此中から補充されて行く、其缺員は平均每月百人に達するとの事だ。

▲巡査の閱歷調　斯麼な手順を経つて、巡査になつた人々を各方面から調べて見る。先づ年齡は廿年が最年少四十五年が最年長だが、廿代が一番多く學問の程度は、中學卒業から私立大學の出身者が最も多く軍人上りも少くない。之は下士が最大多數を占め、稀には尉官位に登つた者もある。一般から見れば隨分複雜して居て、迚も完全な統計は出來ぬさうである。今年一月からの統計に依つて見ると、尋常小學卒業が十三人、高等小學修業が四十八人、中學卒業が三十八人專門學校私立大學卒業が卅人と云ふ數を示してゐる之丈けの人數の中に相當の學識ある私立大學や、專門學校の卒業生が卅名も居る處を見ると、一面に於ける生活難の甚だしさが想像される。



（二）こんな靜押しする者もある（人民保護がおかしい）

▲巡査志願者の多い國　次に巡査志願者の府縣別を見ると東京が第一番で其次が新潟夫れから群馬千葉、茨城、栃木、長野、宮城、福島、山形、石川、宮崎、鹿兒島と云ふ順序になる。一番少數なのは大阪と滋賀であるが、大阪は商業の殷盛な所丈けに其方の需要が多く、滋賀の少いのは矢張行商人などになるのが多い故であらう。扨て警官の收入などざつと調べて見ると巡査は十三圓以上廿圓警部補になつて卅圓迄、初めて巡査を拜命した時は十三圓で外に五圓の手當がある其代り被服から靴下迄官給であるが平均十七八圓の收入では都會の生活は甚だ困難である。（中央）

●棄兒年々增加す

▲巣鴨分院の近況

東京市養育院巣鴨分院にては主として養育院に收容せられたる孤兒貧兒等を集めて敎養しつゝあるが、此等の孤兒貧兒は五種類に分たれ、第一は棄兒、第二は遺兒、第三は迷兒、第四は行路病人の小兒、第五は窮民の兒童にて之を市内及び郡部の各町村より收容す。但し遺兒と窮民の兒童とは市內に限りて之を收容し、明治四十四年度の統計に依れば、同年內に同分院に收容の院兒、總て二百四十七名、內男百七十七名、女七十名にして、一ヶ月少きも五名多き時は三十五名、平均入院者二十名强なり、右は五六歲以上即ち幼稚園及小學校程度の兒童にして此外に乳兒、病弱者、不良少年等安房分院又は井の頭學校に入れるものも少からず、要するに入院救護を要する兒童は

▲年々增加の形勢　にして同分院四十二年三月巣鴨に移轉を初め、全部兒童の收容を終れるば同年五月なるが、同月末日の在院兒童總て三百十五名、內男二百十名女百五名なりしもの漸次增加し、本年五月末

日の在院兒童四百人内男二百三十五名女百六十五名、即ち此三年間に八十五名を增加したる次第なり。同分院にては此等の兒童を如何に教養し如何に處置しつつあるかと云ふに、同分院は普通の孤兒院と趣を異にする所より、長く同院内に於て之を保護養育する能はず遺兒迷兒其他にして父母又は親戚等の引取人ある時は直に引取らせ然らざるも兒童十二歳となれば或は養子に遣はし、又は雇預けと稱して商家又は個人の工場等に出して他日自活を爲すの道を立てしむ。

▲院内教養の模樣 は院内に三棟の寄宿舍ありて之に四百人の兒童を分宿せしめ、幼稚兒は中寮に七八歳以上小學適齡の男兒は南寮に女兒は北寮に收容し、幼稚兒には十八九人に一人小學兒童には二十四五人に一人の保姆を附し、食事入浴等一切の世話をなす朝は五時半に起き、年上の兒童は自から床を上げて室内の掃除をなし、七時に食事を爲し食後は教場に出づる準備を爲し、天氣の好き日は運動場にて運動をなす、在院の兒童は大抵營養不充分なるを以て運動には特に注意を拂ひ、八時には登校の時間なるを以て各寮長は各自の子供を運動場に列を作らしめて、之が點檢し、簡單に一日の心得となるべき訓話を爲して登校せしむ。學級は幼稚園二組尋常科六級と別に學科の進歩遲鈍なるものを集めたる一級と盲生四名啞生四名とを特に教育しつゝあり。午後一時學課を了れば男子麻裏草履の製造の菓子袋貼を手工科として課し、女兒は裁縫編物等を課す。

▲娛樂の中に修養 を爲さしめんとの目的にて立志會と稱する子供の會を設け、每月一回小兒をして話の稽古をなさしめ、餘興として唱歌劍舞活人畫等の催あり、此等は成るべく小兒等の考案に成るものを演ぜしむ。元來同院に在る兒童は、父母兄弟等を失ひ、種々家庭の事情より智德を缺く所あり。其心神荒れたれど院内に在る間に未だ完全とは云ひ能はざるも、大體に於て規則立てる生活に馴れ、次第に元氣を恢復して小兒らしき情發達し來り、最初はお辭儀も出來ざるものも、次第に禮儀を覺え、日常の行狀言語遣ひ等も改まり、其狀況は第一に此の立志會に現はれ來るとなり。又同院より外に出でたる子供は盆と正月と年に二回商家より大工の家より紺家より或は辯護士の書生として元氣よく院に歸り來り、兎角一人前の人間となり行くを見ては院の當局者も其を唯一の樂みと爲しつゝありと。(二六)

●父祖の善と惡

▲遺傳研究の實例

近著佛國「ラ、プレッス、メヂカル」誌上に北米合衆國に於ける相反せる遺傳の實例をマニトバ州の養育院の報告より抄出掲載してある。人類の身體と性質との遺傳する理法は人常に之を說く。されど此くばかりの興味ある的例は甚だ得難い珍らしいものであると思ふ。即ち

▲善良なる遺傳 ジョナザン、エドワーツと云ふ人は今より二百十幾年前(一七〇三年)にコンネチカツト州に生れた人である。その子々孫々彌が上にも殖えて今日では、總計千三百九十四人となつて居る。此の多數の子孫はすべて先祖エドワーツの善良なる遺傳を受けて一人として惡人がない。その人々の位置身分職業等皆立派なものばかりだ。之を詳記せんに大學長が十三人、教授が六十四人、醫師が六十人、牧師が百人、軍人が七十九人、文士が六十人、判事辯護士が百八十人、官吏が八十人、上院議員が三人、副大統領が一人、航海汽船會社員が一人、そして尙ほ數人の州知事、代議士、市長、公使等が此子孫の中に見出される。此子孫の住居は米國内三十三州九十二市及び海外數ケ國に定められたが、一人も納稅を怠らず、而して犯罪の如き公共事務の厄介とならざりしを以て、此エドワーツ家族が社會の利益となりしは云ふを要せぬ次第である。

▲醜惡なる遺傳 マックス、ヂユークスは凡そ百九十年前(一七二〇年)に生れた。性質怠惰にして且つ飲酒家であつた。此のヂユークスの子孫の運命は如何であつたかと云へば病院内にて死んだものが三百十人夭折したものが三百人花柳病に病んだ者が四百四十人不謹愼で病氣になつた者が四百人重大なる不道德を爲したる者が五十人殺人犯者が七十人十二年懲役者が六十人輕罪犯者が百三十人、そして此子孫中一人も公益の爲に出金したものがなかつた。かのエドワーツ家が社會の公益を爲したる反對にヂユークスの子孫が國家社會の損害と爲つた事は、單に無形上のみならず計へ得べき數字を以て此損害を概算するに、彼等の犯罪懲役等は國家をして實に二百卅十萬圓の損害を蒙らしめたのである。幸なるかな此家族今や滅絕してしまつた。(讀賣)

●閲覽さるゝ書籍

▲精神的の書讀まる

神田區一ツ橋通帝國教育會の傍なる東京市立神田簡易圖書館に就て此頃の狀況を聞くに、由來神田區は書生の巢窟と稱せらるゝ程ありて、同館の閲覽人には學生最も多く其の大部分を占め、昨年十一月五日開館の當時は閲覽人極めて少く、一箇月僅かに千人乃至二千人に過ぎざりしが、其後次第に覽閲人を增して今や每日少きも百人、多き時は五百人以上の閲覽人ありて一箇月少きも一萬人以上に上るの盛況を來せり。而して近時一般閲覽人の傾向に、眞面目に精神修養に關する書籍を讀むの傾向ありて、貸出の最も多きは故高山林次郞氏の樗牛全集、澁澤男爵の靑淵百話、竹越與三郞氏の惜春雜話、本間久氏の白恨、遠藤隆吉氏の常識百話 新渡戶博士の歸雁の蘆、幸田露伴氏の努力論などにて此頃は一般に自然派の小說下火となりて。讀者極て尠く、之に代りて歷史小說多く讀れ、德富蘆花の作は今尙は讀者の手を離れず、又婦人の閲覽人は甚だ少く最も多き時にて一日二十人(普通は七人乃至八人に過ぎず。此等は醫學又は文部省の檢定試驗を受けんとするものにて、唯だ趣味の爲めに讀書すると云ふが如きは極めて稀なりと云ふ。(中央)

家庭

●家庭訓小話

▲ある婦人がダルウィン に向つて「我が子は今二歲半になりましたが、何時頃から教育を始めたら可いでせうか」と問ふた。するとダルウィン答へて曰く「夫人貴女は最早二年半遲らして御仕舞ひになりました」と。支那には胎教と云ふことがあるが、ダルヴインの答へよりも一層進化の理法になつて居るであらう。其れは兎も角もとして世の中には斯くして教育の手遲れをなし、取り返しのつかぬ損をして居るもの少なくない。

▲前救世軍大將ブウス は八人の子持であるが何れも揃つて父を助ける者となつた。ブウス夫人は或る人が其の教育の秘訣を問ふたに答へて「それは惡魔に先を越してやるからです」と出つたさうである。パウロも惡魔に處を得さする勿れと云つたが、家庭教育の秘訣は實に此のやうな積極的方針を取つて、善を以て惡に勝つにあると思ふ。善い習慣を作つて惡い癖を追ひ拂ふに限る、故ブウス夫人の如く常に機先を制することが大切である。

▲ライマン・ビ井チャア は七月目に生れた月足らずの子で、發育十分ならず、産婆も之は到底助かるまいとて、布に包んだまゝ、暫時捨て置いたところが、泣き始めたので、驚いて赤兒を洗ひ衣を着せたと云ふ、斯る月足らずの赤兒でも、母の注意深き養育の結果、終に世界に名を轟かす大說教者になつたことである。此話は昔し福音新報紙上にも書かれたことがあつたが、弱き子を有つ親には大いなる希望と奬勵とを與ふる事實である、是れは又決して肉體の月足らずばかりでなく、精神上の月足らずにも當て箝るとである。かの米國の愛國的雄辯家として知られたパトリツク、ヘンリイの如きは、到底物にならぬやくざものとして取扱はれて居た位の男であつた。鈍物視されたものでも、或る機會に臨んで、天來の靈感に接すると新しい人間になる。世の中に失望すべきことはない。注意して撓まず努力すれば役に立たぬものでも必ず役に立つやうになる。

▲無線電信發明者 マルコニイの母は、マルコニーが夙くも理學に趣味を有つて居ることを看破し、早速其の家の組織を變へて幾多の理學の標本を壁に掛け、又は理學に關する書籍を集め、恰かも彼の居室は理學の教室の如くにして、其の研究を助けた。それのみならず母自らもまた理學を研究して、其子を指導する事を怠らなかつた。此の如くして彼に世界第一の理學者たらしむるの道を開いたといふことである。何れの家庭にも此んな行き屆いた注意が欲しい。天才と云ふものは偶然に出るものでなく、矢張り境遇や教育に負ふところが多いのである。家庭は其の子女を樣々の形に造り出す鑄形のやうなものである。

▲菜根譚に 「家人過ちあらば宜しく暴怒すべからず、宜しく輕棄すべからず、此事云ひ難くば、他事を借りて穩かに之を諷せよ、今日悟らずんば、來日を待つて再び之を警めよ、春風の凍を解くが如く和氣の水を消すが如けん。纔かに之れ家庭の型範なりとの語がある。祭司エリの如く子供に對して餘りに甘過ぎて所謂スポイルトチャイルドにして了うことがあつてはならぬが、餘り嚴し過ぐることも宜しくない、パウロの云つたやうに子供の氣を餒ゑさせてはいかぬ、事を穩かに取り計ふことは家庭の平和を保つ所以である

▲ネルソンの幼時　ノルスワルサム學校に居た頃、會まクリスマス休日に際して、父エドモンドの安否を訪はんが爲めに、郷里に歸り、再び學校に返らんとして兄のウイリアムと共に馬に騎て出かけたが、雪深くして路通ぜず、止むを得ず、半途にして歸つて此事を父に告げた、父は兄弟を誡めて「路通ぜずとあらば致し方もなけれども、明日の課程を缺く事は宜しくない。道路の難を犯して進むと之に堪ふる事の出來ぬとは、汝等兄弟の面目に關する所である。能く熟慮せよ」と云つた。兄弟は直ちに北風膚を刺し。馬も進みかねたる大雪の難を冒して進んだが、兄は遂に堪へ得ずして、とても駄目だから父の家に歸らうと云ふ。然かし弟は頭を掉つて聞かず「兄上は旣に父の言を忘れ給ふたか、往くと返るとは我等兩人の面目に關すと父上は云はれたでないか、人は能く忍ばなければ到底大事をなすことが出來ぬ。此雪位のことで志を屈してなりませうか。兄上歸らんと思はるれば歸られよ。我は再び踵を返さない」と云ひ、兄も弟の健氣な言に愧ぢ奮發して學校に歸つたさうである。（辻井氏のはなしの庫）

●乃木伯の艶福

▲或新聞に乃木伯の艶聞と云ふ話しが出て居ました。それは、彼の方が讚岐で師團長を勤めて居たころ、或宿屋に泊つたところ、亭主が近隣の官吏の娘を頼みお給仕に出しました。乃木さんは餘ほど其の娘がお氣に叶つたか、優しい言葉で年齡や姓名などを承れられました、それから幾日かの後、再び其宿屋を尋ねられ、亭主を呼びて、先日給仕した娘の取持を頼み度いと請ひました、亭主は異樣に感じて、いと當惑して居ると、伯は微笑み、實は部下の中尉に余が大事の人物が有りて、兼てより似合はしき妻を持せ度いと思うて居るが、彼の娘ならばと見込んだ故、お前の媒介で中尉の妻にしたいのであると說明されましたので、亭主は忽ち打喜び、お引受けして間も無く縁談が纏まつたのであると申す事です。實は艶福では無く、乃木さんが如何に部下を愛したかと云ふ一例に過ぎぬのであります。けれども、

▲若しも艶福と云ふこと　が乃木伯の傳記に必要であるとすれば、自分の後を追ふて黃泉にまで來るほど其夫人に敬愛せられたことが、今の人間に又と無い艶福ではありますまいか。今艶福ばかりは、桂さんとか西園寺さんとか云ふ樣な、平生艶福家と云はれる人でも眞似をすることすら出來ぬであらうと思はれます。乃木伯は此艶福が有つた爲め、此以外の艶福など求めなんだのでありませう。全くの所、此以外は眞の艶福で無く、寧ろ艶貧とか、艶災とか、艶醜とか云ふべきであらうと思はれます。（婦人評論）

●大酒家の妻

▲貞女の苦衷夫を感ぜしむ

淺草區橋場町二五七の細民長屋は、東京市特殊小學校後援會が玉姬小學生徒の父兄にして、吉原大火に罹災せる人々を收容せし三十戸建の貸長家なるが、其一戸を借受けて御多分には洩れぬ貧しき生活をなし居る。

▲龜本萬吉（四十三）の妻はる（三十八）こそ稀らしき貞女なれ、同人は佐渡相川町に生れ、小學校卒業後某女學校に學び、實家は相應に暮し居れば、今より二十年前前記萬吉に嫁し、日本橋區長谷川町にて唐物仲買を營み押しも押されもせぬ身分なりしが、萬吉は性來の大酒家、日々諸方を飲み廻りて家業を顧みず終に多少の資產も飲潰したる上、不義理も嵩み其後は何事も失敗續きに益自暴となり、親達にも見離され、淺草界隈の細民窟に移つて、人力車夫と迄身を落したるも大酒の惡癖は却て募り僅の稼ぎは皆酒に代へ大道に醉臥して警官の厄介となりし事も幾度なるを知らず。隨つて赤貧洗ふが如き有樣なりき。妻はるは斯かる

▲頼み甲斐なき夫に　仕へて多年の貧苦に耐へ忍び夫の收入は的にせず、日夜種々の手內職をなし、二人が仲の長男要（十一）の成長を樂しみに細くも煙を立て居たるが親戚共も見るに見兼ね、屢々離縁を勸めるもはるは斷然之を斥け、富に嫁し貧に去るは女の道にあらず、夫は大酒こそすれ性質決して邪なる者にあらず、他日改悛して夫婦一心に働かば、家運再び榮ゆる事もあるべしと飽迄貞操を守り、折々は夫に向つて淚ながらに諫めしが、萬吉の酒癖は容易に已まず、女の手一つにては其尻も拭ひ兼て今は路頭に迷はんとする場合に立至りしより、はるは實家に泣き付きて何か商賣に有附く爲め金二百圓を出して貰ひしが、萬吉は密かに持出し仲間の車夫を集めて大酒宴をなし忽ち件の金を消費ひ捨てしに遉がのはるも呆氣に取られ心に深く悲しみながら、尙も貧苦の裡に要の敎育を怠らず玉姬小學校に入學せしめ、自ら讀書算術を仕込みし其甲斐ありて要は今春二學年を

▲優等にて卒業し　一家は昨年の吉原大火に類燒後橋場長家に收容せられ、相變らず夫や子の爲め一心に働くより、近所の人々も深く感じ、長家の係員伊賀氏も其貞烈を嘆賞し、此程萬吉を招きて懇々說諭する所あり、萬吉始て夢の覺たる思ひにて感泣し翻然其非を悟り、爾後禁酒を誓ひて稼業を勵むに至りたればはるの喜び譬へん方なく、親戚達も之を聞きて萬吉の悔悟とはるの貞操に感激し、玆に若干の資本を與へ味噌醬油炭薪等の商賣を始めさせしが、近所にても特に貞女の店と評判し、開業後まだ間もなきに日毎の繁昌昨今は毎日四五圓の賣高ありて行末の見込みも立ちたるは全くはるが貞操の德なるべし。（朝日）

○健　康

●人間の壽命

▲幾歲まで生きられるか

醫學博士　大澤謙二氏談

▲人間の壽命　では七十古來稀なりと云つて居るが普通壽命の永いものでは鶴は千年龜は萬年と云つて動物の内には隨分長生をする者があり千年以上生存し居たと云ふ確實なものは聞いたとがないが龜抔は確に長命な方で倫敦には百十五歲の龜が居るし桑港にも百何十歲かの龜が居るさうである、殊に體軀の小さい割合に長命なのは鳥類で鸚鵡鷹抔の百年以上のものは珍しくも何ともない小鳥では鸚鵡の廿年鶯の八年乃至九年なども軀の割合に短命とは云はれぬ大きなものでは鰐の四十年象九十年から百年駱駝の五十年であるが體軀の大なる割には長命でない鯨の壽命は千年だとか四百年だとか云ふけれども的確な事は判らぬ但し長生きする者であるには相違ない樣だ



（三）こんな邪魔する者もある
（法律はいつも空文）
憤慨生（投）

▲存外な長命　は蟇の三十五年乃至四十年魚類では鯉の壽命が最も長く獨乙ヒホル氏の調査に依と百五十年生存た鯉があつたさうだ其他魚類にはあまり記錄が尠いが介類の壽命は蜆が五十年から八十年蠣の十年乃至十五年不思議に長命なものは蝦の二十年イソチャクの五十年から六十年生存る抔は一寸面白い最も短命なのは昆蟲類だ一體昆蟲類は子を產むと直ぐ死で了ふのが多いので蛾の如き蜉蝣の如きは其死亡と出生とが同時で朝に生きて夕に死す哀れかげらふの露の命抔と短命夭死した者の形容に屢々使はれて居る位だが全體昆蟲抔の下等動物になると何遍も變形するので其壽命が甚だ曖昧なものである孑孑も蚊に成る迄の浮沈みで蚊としての壽命は

▲僅々一日間　に過ぎないが孑孑時代の浮沈みの間は可なり長いのである夫れから蜂や蟻抔は他の動物と大に趣きを異にして居る牡の方は一夏切りの壽命で一度交尾すると其場で死で了ふ甚だ思ひ切りの善い者であるが牝の方は大抵二年間は生存て居る、動物界の壽命はざつとこんなものであるが扨て人間の壽命はどうであるか死だ人の壽命を集めて其の平均を見ると三十幾年に成るので四十年とは生きないことに成るのである然うして其樣かと云ふと玆に百人の人の死亡年齡に就て見ると當歲で死ぬものが三十五人で五十歲に達して生殘るものが僅に三十五人に成つて了ふのである斯うして見ると成程七十古來稀れなりは決して無理な言ではない大隈老伯の百二十五歲には一寸當て箝まらない樣だ日本建國以來歷代天皇の御壽命を算へて見ると神武天皇の百三十九歲景行天皇の百四十三歲神功皇后の百十一歲に渡らせ給ふた抔は頗る御長命と申上る外はないが實は應仁天皇に至つて曆が始めて出來たのであつて實際の話しは疑はしいものであり武内宿禰の

三百十七歳杯に至つては無論お話に成らない而してを較べて見ると女の方が比較的多い

▲男女の壽命　此れは人間のみでなくて凡ての動物に於ても同じことで今云ふた蜂杯は特に甚しいもの丶一例である從來の學者が人間及び動物の壽命に就て一定の標準を見出だす爲には種々なる說を立て丶居る一般に動物は發育期間の五倍丈の年月は生存し得るものであると云說もある即ち人間は二十歳迄が發育期間であるとして其五倍が百歳である併乍ら其間の全く發育し關節の間の軟骨が總て硬化し終る迄には尠くも二十五歳迄を要するので然らば二十五年が發育期間とすれば百二十五歳となる例の大隈伯の百二十五歳杯も此の邊から出たことであらう、處が馬などに成ると發育期が四年であるから其五倍四五二十歳に死ぬ筈なのが三十歳以上三十五歳位迄は生存する處を見るとあまり當てに成らぬ樣である云々(中央)

●肉食過量の害

日本が米價昂騰物價騰貴の聲が世界到る處に起つて、後側の米國では肉價に苦んで果に生活難を訴へる時、科學的に食肉を分拆した結果肉食害を唱へる醫學博士が出た。

▲過量の肉食と人體　最新科學の示す處に依つても、又有名な倫敦のブラントン博士の言明に依つても多量の肉食が人體に及ぼす害は甚だ尠からぬものである。從來は肉食が營養分の主となつて體力精神力共に之を健かならしむるとのみ思つて居たが、事實は之に反して、肉食を多量にする結果は、却て筋肉を疲勞せしめ、精力を殺ぐ。精神狀態は又之に影響せられて埒もなき事に心を勞し、焦立ち始終平かならぬ波を起す事となる、斯くては肉食が却て害となつて榮養の目的を達し得ない、此は抑も何故であらうか。

▲何故に有害なるか　凡そ適宜の運動する普通人の常食は、一乃至二オンスの蛋白質と二オンスの脂肪質と十六オンスの糖分と澱粉と、此外に重要なのは「人體の礎石」とも言ふ可き果物穀類中に含む鑛物質とより成るのである。仍で多量の肉食は體中に不消化性含窒素物を過量ならしむる故に、體質を弱め、延て神經と筋力に對し毒物として遺る礙が起る。肉類の蛋白質は他の蛋白質に比して早く腐朽する傾向がある。で斯る腐朽物から取つた主成分は無論有毒である。體中には此等有毒物を化學作用に依つて新な無害の物に變へ樣とする働きが絶ず行はれて居る。加之に肉類の中には尿素、尿酸等を含んで居て、此等は當然肝臟腎臟等の働きに由つて消め去らるべき毒素であるが、一旦健康を損すると之等の機能が十分に行はれなくなつて毒素が人體に殘ることがある。

▲肥滿無氣力となる　此等の危險の一部は亦吾人の血液中に侵入して自然血液循環に障碍を來たす事を免れ難い即ち心臟肝臟腎等は此無益物排斥に相當の努力を用ひ、肺臟も淸潔法實施に多量の空氣を要し、胃は不消化を起し醱酵を來して全體の機關の運轉が益益非となる。遂に不快の氣分と無氣力とが起つて、廢殘物排斥の運動が緩漫になる結果、體量は增す活動力缺乏は脂肪を增す、脂肪の增加は益々活動力を殺と言ふ順序になるのである。過量の肉食の結果として肥滿無氣力となる場合には奈何したい可いか。

▲運動と輕食を取れ　此場合の治療法は、運動第一、多量の新鮮な空氣を呼吸すること丶、速に常食を改良する事第二、窓を開いて眠り出來る限り戶外の生活をして最も輕い食物を取る事第三である。古代に有力であつた文明國人は肉食種ではなかつた。又見る人每に羨まる丶カナリー島人の體質と力量も單に穀物の賜である。勞働に耐へ得るを以て知られたる佛蘭西の農民には長壽者が多い。嘗てコブデンが佛國の繁榮の素として野菜の羹を賞翫した事がある。伊太利の農民の逞しい筋肉も多くは常食とする栗粉と麥による。日本人は殆ど菜食し、諾威と波蘭人は主に麵麭と牛乳と乾酪と藷を食して居る、其他此例は枚擧に遑がない。

▲上等の肉を要せず　多くの人が多量の肉食から來る體質虛弱に苦んで居る事は醫師の經驗に徵して愈々確な事實である。蛋白質に於て差異はないが、最上の蛋白質として西洋食品中では乾酪を第一に擧る。之には野菜の刺戟性で消化し難い纖維もなく肉の腐朽性もなく、理想的の蛋白質なるのみならず、腸內の有害なるバクテリアを滅ぼし又其發生を防ぎ得る有効なるバクテリア乾酪の中に含まる丶故である。且肉類の蛋白質は最も高價である。吾等の胃腑と財囊と二つながら益せんと欲するならば多量の肉も精選した肉も共に買ふ必要がない。例へば佛國人の主婦は十錢程の硬肉と三錢程の麵麭と之に野菜を添へて蒸煮をつくり、家內三人の十分な美食を作るに比べて、米國の主婦が

十倍の價をかけし上肉を燒き食品を賑はしても却て前者に及ばない。一般家庭の主婦に望ふ處は食物の成分と價値と料理術を研究して、無暗に高價の物を用ふるよりは低廉と實際健康に適した食料を得る事を心掛けて貰ひ度いと云ふのである。(朝日)

●臺所重寶記

經濟

▲楊枝で障子洗ひ

障子を洗ふには、齒みがき楊枝の古いのに水をつけて擦ると、隅々のゴミや紙までが、綺麗に落ちる。手間もいらず、棧も傷けず、至極重寶である。

▲皮蒲團のしまひ方

皮座蒲團の皮は、とかく硬くなり易いものであるがこれは秋不用になつてしまう時、白木綿の布にチヨツと酢をつけてよく皮を拭き、あとで日光にあてゝ風を通しておくと、色も變らないし、黴も生へない。夏出す時にかうすれば、なほ結構である。

▲爪楊枝を焦がす

爪楊枝を使ふ時に、先を少し焦して使ふと、丈夫にもなり、消毒もできて誠に心持がよい。

▲古手拭が帶の心

手拭の古くなつたのを貯つておいて、四五本つぎ合せ、少し濃い糊で張ると、ふだん用の帶の心に結構なものが出來る。だから平生古手拭一つでも、ムダにしないで貯つておくがよい。

▲半襟でつけ紐

古くなつた半襟は、洗濯してからタテに二つに切り兩方とも紐のやうにくけて、子供の衣物の附紐にすると、體裁もよく且經濟になる。

▲線香の灰の利用

神佛や其他に使ふ線香の灰は、すてないで貯へておいて、金屬類を磨く用に用ひると、普通の磨粉より美しく磨ける。

▲輕便な鼠取り

鼠が暴れて器物を嚙つて困る時、板片にとりもちをつけて、その鼠の通るやうな處へおくと、面白いやうにとれるものである。

▲メリヤスの雜巾

メリヤスのシヤツなどの古くなつたのは、よいほどに切つて綴で、刺して雜巾にすると、丈夫の上に、シツトリして使ひ心地がよい。

料理

▲ミルクトーストの製法

トーストとは、パンを二分位の厚さに切つて、遠火で兩面を狐色になるまで燒き、片面にバタを引いたものである。ミルクトーストを造るには、

材料。メリケン粉大匙一杯、水大匙三杯、牛乳三合
バタ大匙一杯、鹽一摘、パン半斤。

製法。第一にパンを短册なり四角なり、好みの形にして、三分位の厚さに切り、兩面を狐色にするまで燒いて置く。次にメリケン粉を水で溶いて、その中に牛乳に鹽とバタを入れ、焦げつかぬやうに攪きまぜながら、十分ほど煮て火から下す。その熱いうちに、前に燒いたパンを一切れづゝ浸して、柔かになつた時、皿へ出して、殘りの汁をその上にかけて出すので、好みによつては、之に砂糖をかけてもよい。

▲サンドウイツチの製法

ゆで玉子を黄味も白味も共に細かく刻み、溶いた西洋芥子とバタとを少し入れて練りまぜてから、鹽と胡椒を加減よく加へたものを、パンの片面に塗りつけて其間に肉を挾み、二枚合せるのである。肉は蒸燒肉を薄く切つたものか、挽肉をバタでいためて、鹽と胡椒で味をつけたものか、又はボイルドハム(ゆでハム)を薄く切つたものか、その中の何れを入れてもよい　此外ジヤムを入れてもよし、又バタを引いて、その上へ砂糖を少し引いてもよい。

▲里芋のうま煮

里芋の皮を剝いてゆでた後、水で洗つて粘り氣を取り、目笊に上げておく。別に鍋へ煮汁と醬油とを等分に入れて砂糖を適宜に加へ、火にかけてチヨイと煮立たせた中へ、前の里芋を入れ、焦げつかぬやうに注意して煮上げます。後で鉢にうつして上から山葵卸でおろした柚子の青いのをかけて食べる。

▲牛蒡の遠山煮

牛蒡の皮を奇麗にとり、五分ぐらひの輪切りにして三十分間ぐらゐ水に浸けておき、灰汁を出した後、澤山の水でゆでる。柔になつたら水を切り、煮汁、砂糖醬油で味をつけ、煮上げた後、青海苔を揉んで上へかける。之は皿盛にしても、又燒物の附合せにもよい。

雜纂



娼妓の廢業に對する中央警察官と地方警察官の處決振り

△靜岡警察と東京警視廳の取扱ひし事實

▲遠江國周智郡森町貸座敷花月樓事田中勝平方抱娼妓、小町事松崎まさ（二十一）は、去る九月十九日、左の如き書狀を認め、江尻なる東京十字社出張所へ送り越して來た。

一筆しめし〻。さて私こと今だあなたがたには一度も御目にかゝりしことなきも、いずれも樣にはおんまめやかに遊され候由目出度ぞんじ〻。つぎに私こと子ごもの時より不しあわせうちつゞき又せん年は父は目をやみ、母はながらくとこにつき、私は妹のおせきをこもりながら絲とりをしてをりましたがくすりをかふこともできず、つらいことゝはしりながらふたをやのゆるしを以て江尻のときわろうへ身をしずめ、其の金でをやだちをたすけましたが、生れざいしよに近きことゆへお友だちなごがみせへ見にまいり、あまりつらさにこらへかね、昨年十月末花月ろうへくらがへいたしましたが、大だんな樣や御めかけさんまで私ごもをひごくしてまいりしより今が今まで三度の食じにをさいをつけしことはなく、ごましをばかり、それでも身がつゞかぬゆゑ、おかずをかつてたべればかりたお金がますばかり、はながみやべにお白までのを金をかせぎのうちよりひかれ、きものをこしらへたといつては、をもにをきせられ、借金のなくなる日はなく、昨年くらがへした身が、今は五百二十四圓となりました。私はからだが惡くて、いしやにばかりかかつてをりますから、ほかの人より金はふへたのでありますが、やんでれてをるとだんな樣方まくらもとへまゐり、このびんばう神が、なんぞと惡口ばかり申され、それがつらさに少し氣ぶんがよければつとめますが、お客樣が少ないときは、私ごもがお客樣のもてなしが惡い故こないのだ、なぜ親切にはたらかぬとしかられ、すぐほれたとか、あなたのこと計り思つてをるとか、かわいゝとか、お客をつりだすやう手紙を出せとせめられ、いやながら手紙をだせば、いんしは借金となり、ねてもをきても生れざいしよのそらをながめ、いきて地ごくのくろしをうけるより、しんだがましと思しこともたび／＼にて、それをかほへだせば、お客のきげんをそんじ、わせぬかとも思ひよろないて日をおくりをり候。をりからほうち新聞にてあなた樣がたのなさけの程を承りとび立つほごに思ひ、さつそく手紙をさし上げお願ひいたしたきことは一すじむれさらず、さりとて入の手紙は一々だんな樣が目をとうすゆゑ、如何せんといろ／＼かんがへ、ようよう心いたしたあげく、この手紙をさし上ろこととなりました。ごうぞ私のむれのうちを御さつし被下て一日も早くかたきの人となる樣御たすけ被下度候。まへに申上た樣のわけゆゑいくたびでも手紙を上げませんが、ぜひぜひたすけて、人なみのにんげんにして下さい、手をあわせてをがみます。又御返事を下さると大だんな樣にしれますゆゑさよう御承知被下度もし私を御たづれ下さるならば花月の小町とさへ申せばすぐわかりますゆゑ、ぜひ／＼此うき川竹よりすくひあげて下さる樣お願申上〻

▲之を見た十字社は、特に事實の調査を遂げて、一面自廢の準備として、兎角田舍の警察が干渉妨害する等の例もあれば先づ前以て署長及各巡査に至るまで、雜誌『廓淸』を送りて其主義目的を明かにし愈々十月十一日、主任矢ヶ崎喜三郎氏は森町に出張して、花月樓に至り、娼妓小町に面會を求めた。所が樓主の倅鐵太郎は、主人勝平が桃山に參拜不在中であるから、猥りに娼妓に面接を許す事は出來ないと拒絶した。然し矢ヶ崎氏は、懇ろに本人を諭して、遂に小町に逢ひ、一應本人の意志を確め、小町を伴ひ、樓主代鐵太郎と同行して森町警察署に出頭したのは、恰も午後一時頃で、署長片山安藏

氏は他出して不在であつたから、暫時人民控所に休憩して居たが、其中にも鐵太郎は小町に向ひ、樣々の言語動作を以て小町を威迫したから、矢崎氏は屢々注意を與へた。其中に片山署長も見えたので矢崎氏は小町よりの來信を示して、且本人の意志を告げると、署長は早速小町を取調べ、午後三時には名簿削除の手續を了するに至つた。

▲片山署長が此の果斷に對して、樓主及附添つて來た二三の雇人等は、矢崎氏が小町と共に腕車に乘じ、掛川驛に向つて立去る後姿を、只呆然として見送るばかりであつた。同夜八時頃、江尻十字社に着した小町は、翌日上京して、東京救世軍婦人ホームに收容せられた。

▲吾人は矢崎氏より此報告を得て流石に賢明なる松井知事の配下にある靜岡縣警察官が人權の擁護に熱心にして、官權の運用に公明正大であるかを見ることが出來た。之につけても帝國の首府東京の警視廳が、かゝる問題に對して如何の處置をとるか、今左に其の一例をひいてみるが、此の二つの對照によりて、吾々は所謂人民保護の警察の、職務に對する忠實と親切とが、中央よりも地方に於て、却て深い事實を認むべく餘儀なくせらるゝ全國の模範たるべき中央警察官のため誠に惜しむべき次第である。

＊　＊　＊　＊　＊

▲先頃深川區洲崎辨天町一丁目平野樓平野幸三郎方お職娼妓萬龍事高越辰枝（假の名）が救世軍の世話にて自由廢業の申請を爲たる時及び其前後に於て洲崎署の取つた處置程甚しき警察權の濫用は、近頃曾て耳にしたことがないのである。

元來本人は洲崎切ての全盛にて、主人の方では從て成るべく長く稼がせ度いと思ふ所から、例へば身受けの客人がつき懸つても、「借金等に目を呉れて居るのではない」といつて取合ず、反て其登樓を斷はるといふ樣な遣口を爲し勿論見張は嚴重にて一歩も外に出られぬので、本人は思案の末二度迄も警察に手紙を出し、自分では出られぬ故呼出して呉れと頼んだのであるが、其都度握り潰しにせられたと見え、何の返事もなかつたのである。

▲其處で本人は最早他に途なしと、手紙を以て救世軍に助を求めたのであり、依賴を受けた本營では早速伊藤大尉を送つて、之が交渉に當らしめたのである。大尉は先づ前記平野を訪ふて暫時折衝の後兎にも角にも、本人を所轄警察迄同行することとし、續いて垂水署長之が取調に當つたが、本人の意志は最初より明白なるにも拘らず所謂公平の處置なる名義の下に百方本人をして其素志を撤回せしめんとしたのである。但し本人の覺悟は牢として拔く可らず大尉亦之が爲に署長と事の理否を辯ずる處があつたので、終に名簿の削除は行はれ、本人は救世軍の保護を受くることゝなつた。

▲此迄の處が既に法治國の警察として、充分不可解の取扱である。

即ち二度迄も自筆の書信を握潰しにした上に、出願して廢業の意志を述ぶれば、其意志を明らかにするのではなくて、之を曲げしめんとするのである。斯の如き娼妓取締規則の解釋といつてはあるものでない。然も之以上の咄々怪事が起つた。其は他でもない。既に立派に名簿を削除して、最早娼妓でも何でもない本人に對し、警察權を以て再び取調（？）を行ふたのである。即ち廢業後五日目に他の警察を通して呼出しがあつた。事故の爲翌日になつて出頭すると一巡査部長が別室に本人を呼んで「先日尋ねなかつたことがあるから尋ねる」と號しつゝ、今一度本人の族籍姓名から問ひ始め、軈て罫紙數枚の口書を取つた上、樓主を呼出し、代りに出頭した樓主の妻に右の口書を讀みきかせた許りか、部長自身の面前に於て、樓主の妻が「此々の客が金を持て引取りに來る故面會せよ。其場所は警察でもよし」と既に娼妓ならざる本人に對して不法の勸告を爲るのを、平氣で默過したのである。而も其後或筋よりの情報によれば此呼出しなるものは樓主側の歎願に由て行はれたものであるとか。（ときのこゑ）

早稲田健兒の一大快擧

▲魔窟の絶滅を期する大運動

伊藤生

學問の獨立を標榜し、自由の學園と誇稱せる早稲田大學の附近は、近年淫賣婦の巣窟となりて、白鬼晝行き紅妖夜を領し、魔風戀風そよ〳〵と校庭の梢に吹かむとするに至つた。於玆由來意氣を以て鳴る戸塚原頭の快男兒等、遂に蹶然つて倫常の金鼓を擊ち正義の劍を按じ「秋風の肅殺として病葉を掃蕩する如く、「紅き女の影」を一蹴し去つたのは眞に痛快極りなき出來事である。今其顛末を記せば、

▲正義會の設立　早稲田に淫賣婦出沒し始めたのは今より四五年前であつて、目白戸塚等に曖昧店を開業し、白晝公然通行の學生を呼び入れむとし醜態目も當てられなくなつた。で心ある學生は寄寄其驅逐法に就て考究して見たれど何分微力でどうする事も出來ず、遂に本年五月廿六日高田大學長の贊成を得、商科豫科長田原榮氏を會長に、教授安部磯雄氏を副會長に推して、早稲田大學青年正義會なるものを組織するに到つた。蓋し是が對淫賣戰開始の狼烟であつた。

▲學生團の奮起　かくて正義會員の有志は大學の風紀上、淫賣窟の存在は斷じて不可なる事を高田學長田中幹事等に向つて陳情し、移轉方を計られたいと申出でたけれども、同大學の理事者は、學生が衷心の陳情を馬耳東風と聞流し、何等の方法をも講じて吳れないので委員は據無く直接所轄早稲田、新宿、板橋の各署に向つて其取締方を出願した。之に對し新宿署では直に嚴重なる警戒をなせし爲、戸塚方面の淫賣窟は殆んど一掃せらるゝに至つたが、早稲田署の管轄内に屬する分は依然として何等取締の痕を見ざるにぞ、委員は玆に學校も賴むに足らず、警察力亦依るべからずとなし、全校八千の學生に飛檄して

▲矯風團の組織　安部磯雄氏を團長に推して矯風團なるものを組織し、學生自ら此方面の運動に當る事とせり、團員はそれと目指す家へ行つて主人に面會を求め、學校の爲斯る營業方針を一變して普通の料理屋たりミルクホールたらんことを懇請し、又學生の遊興し居るを見ては切にその不心得を戒めて居つたが、學生側は兎も角營業主側では此位の事では屁とも思はず奏効十分ならざるより、同志は更に運動法を一變して、一週間前から數人づゝ一隊を爲して、夜の八時半から翌曉二時頃に至る迄、淫賣屋の前に立番し、出入の人に向ひ、或は直接に或は矯風團に伴れ行き忠告して居つた。

▲示威運動と對抗策　此形勢を見て一方營業者側に於ては恐慌を來し、寄寄集會して營業妨害の屆出を談合し、一兩日前より十數名の破落漢を雇ふて防禦に努める事としたので、學生側も從來の如く三々五々徘徊するの極めて危險なるを感じ、運動方法を一變して寄宿舍團體を召集し、午後八時二百餘名同大學内に集合して、二列縱隊を作り、校歌を高唱しつゝ鶴卷町山吹町方面を巡邏し、淫賣宿の前に至る毎に示威的閧の聲を揚げた。處が豫て營業者側に於て雇ひ置ける破落漢等は、手に〳〵兇器を持ちて學生を狙ひ居る形跡があるので、九時半に至り一先づ校内に引揚げ堅く校門を閉鎖して大講堂に集合し、矯風大演說會を開催

して十一時に及んだ。

▲早稲田署長の仲停　淫賣屋が暴漢を雇入れて飽迄對抗せんとする氣勢あるを聞知せる學生團は、怒氣天をも衝かんずる勢にて更に陣容を整へ、十四日の午後七時を合圖に五百名、各自制服制帽に身を固めて午後七時頃より校内に集合して同夜に於ける作戰計畫を定め、直に示威大運動を開始し、先づ校門を出で管内大瀧方面の淫賣窟に武歩堂々隊列を進め、逐次鶴巻町に渉りて大示威を試み、料理店寶亭の前にて校歌合唱敵膽を寒からしめんと關口水道町まで來りしに岡崎早稲田署長は學生諸君に談合したき事あれば學校まで引返へされよと申込んだので再び校内に歸り大講堂に集つた。此時攻伐軍に馳加はるもの愈多く無慮二千名と註せられた。やがて岡崎署長は講堂に立ちて一場の演説を試み「諸君の今回の企は諒とす、併しながら彼等曖昧店も營業を許可せられ居れば、之に對して妨害を爲すが如きは甚不穩當なり。諸君は只余等警察署員に信頼して、此の如き示威運動は中止せられたし」といふ意味を警官口調で辯じ立てたので、大に學生の反感を買つたが、兎に角別室に於て委員と善後策を講ずる事となつた。

▲矯風團の强硬　此に於て警察側よりは馬場方面監察及び岡崎署長、學生側よりは委員數名出席し、警察側は「學生として此際警察の處置に信頼するを可とせずや」と主張し、學生側は「從來警察が執り來つた方法は、余等をして信頼せしむるに足らず、此際具體的成案を示されたし」と强硬の態度に出でたので、警察側も答辯に窮し種々緩和策を試みたけれども、委員は頑として肯かない、一方大講堂に殘つた二千の學生は委員との結末着かざるうちは、假令夜を徹すとも一歩も茲を退かじとの慨を示し、十一時となり、十二時となり、晩秋の夜氣氷の如く冷かなるも、二千の學生の胸には母校を懷ふの情火の如く燃えつゝあつた。

▲一先づ解決す　委員と警察側との折衝は約三時間半に亘り「早稲田署は學生の奮起を諒とし、今後淫賣窟の全滅を計る可き事、萬一警察にして緩慢なる場合は再び奮起すべし」と云ふ條件にて一先づ示威運動を中止する事となり、委員は之を齎らして大講堂に待てる學生に報告せしに、何月何日までといふ期限なきは甚心得ずと叫ぶ者もあつて、一時喧々囂々たりしも、大體に於て委員の協定を認容し、同一時二十分各自に退散したが此日二十五軒の淫賣窟は宵の中より戸を締て營業を休んで居つた。（十月十五日）

▲着々滅亡す　如くの如くにして空前の快運動は一先づ落着したが、其後早稲田署に於ては約束の如く嚴重なる取締を開始し、附近の料理屋の中檢擧され、又は營業を差止められたる者多く、休業し居る者數軒、他へ移轉せし者三軒あり、尙ほ某亭の語る所を聞くに「制服と私服の巡査が二人宛歩いて居て、少し怪しいと思へば直に踏み込んで見るのですから、淫賣屋の客は極めて少い樣です。普通の小料理屋でも學生が來なくなつたので、滅切り客が減つた」云々と又某主婦は『最う迚も商賣が出來ませんから、止めるより外ありません」といつてゐた。あはれ斯くの如くにして空前の快運動は物の見事に成功したのである、道義地を蕩つて士道の頽廢今日より甚しきはなく、擧世滔々輕浮と淫靡とに流れむとする時、霹靂一聲吾人の耳朶を裂ぎ雷霆の頭上に落下したやうに乃木大將が惰眠を覺して呉れた。然るに今や又城北の一角に於て秋霜烈日の如き早稲田健兒の意氣に接したのである。噫士道未だ全く地に落ちず、我廓清運動の前途に一道の光明の點ぜられたやうな感なきを得ないではないか、遮莫いざや双手を擧げて城北健兒の萬歲を三呼せん哉。（十月三十日）

新聞紙に現はれたる廓清問題

警視廳の風紀取締方針

左は「艷寃の領城」と題し、國民新聞紙上に連載せられたる記事中、最後に國民記者が、警視廳當局者に就て取締方針を質したゐに對し當局者の答へし所なり。以て風敎問題に對する當局者の存意を知るに足る。但し圏點を施せるは本誌記者にして。讀者の注意を促さんが爲めなり。敢て讀者の批判を乞ふ。（球）

▲「學生と所謂艶魔」との關係は、近頃始まつた問題でい無いが、最近早稻田大學生と魔窟との衝突から一層鮮やかになつた、之が取締りは非常に六ケ敷い事で、澤山の問題に分て考へねばならぬ。

▲第一其麼事實があるとして警察が全力を注いで之れを取締るべきものかどいふに、警察力が餘り經費が裕かであらば其の方面へも力を注ぐべきであるが、今日の場合他の大犯罪に對して尙ほ力と金とが足りない際に、却々充分に取締ることは出來ない、（勿論出來る丈け行つて居るが）其所で斯る問題は警察で取締るよりは、左樣云ふ學生に對し寧ろ學校、敎育社會、敎育の方面から嚴重に制裁すべきものである。

▲第二に之を當局者として言ふは如何はしいが、實際をいへば精力絕倫な青年の事であるから、却々老人の樣に引籠つて居る事は不可能である、渠等が抑へ難いいかいいい氣力を散ずる爲め、窃かに人の目に立たいいい樣に行つて居ることは、勿論純正道德上から觀れば善い事で無いのは明かであるが、警察力を用ひて强ひて其罪を鳴さねばならぬ程の事ではない、社會の裏面といふものは常に斯かる小さな醜惡事で充滿して居る、警察は斯かる裏面の小醜事が社會の表面に現はれるまで發く必要は無い。

▲第三に警察として是非共盡くさねばならぬ事は例の艶魔の身體上の檢査である怖るべき病毒を學生のみならず社會一般に傳播する樣な、不健全な艶魔を驅除することは洵に刻下の急務である、警視廳は此點に就いては豫ねて大々的に檢黴を行つた。

▲第四に學生として惡むべきは遊廓や魔窟に出入する者よりは、寧ろ表面品行方正を裝ひながら良家の子女に關係して、金錢を橫取したり、未亡人と關係して學資を貢がせたりして居る者である、道德上の罪は寧ろ前者が輕くて後者が重く、且つ惡むべきであるが、學校の處分は多く前者に及ぶのである、此點は大に考へねばならぬ所である、兎に角學生が魔窟へ出入するといふ問題は、警察問題としては甚だ小問題であるから、專ら學校敎育上將又社會敎育上から正して行くべきものである。

芝神明の魔窟は

全滅し能はざるか

▲譬へ何の樣な場末へ行つても、白粉をコテ〳〵附けた女を見ぬ事はなく、『チヨイト〳〵』の聲は晝となく夜となく絕ゆる間とてない目下の東京は、益々淫風吹き荒んで何時止むとも見えない。先頃早稻田の魔窟問題も一時はどうなる事かと怪しまれたが、早大學生の示威運動と早稻田署の嚴重なる取締が著しく効果を

奏して、今の所では殆んど全滅し、僅か一軒を餘すのみとなつたが、之等は青春の血燃ゆる若い學生連に取つて甚だ喜ばしい次第である。

▲然るに早稻田の魔窟はさて置き、其他の場所はどうかと云ふに、千束町六區濱町などは取締が益々嚴重となるので、彼等醜業婦等も大恐慌を來たし、逃げ行く所を探し廻つて居るが、目下一番風紀の亂れ切つて居るのは芝神明の銘酒屋で、先頃までは多少の遠慨もあつた爲め其附近へ入込む者に限り『チョイ〳〵』をやつたものだが、近來彼等は警察の眼が屆かぬ爲めか、將又妙藥が廻つて居る故か、頗る大膽になつて電車道を始め表通りまでも遠慨會釋もなく出張に及び、通行人の誰なるかを問はず、チト鼻の下の長い男と見れば袖を引いたり帽を奪つたりして遂々己が巢窟へ引張込み、二圓三圓と暴利をせしめて居る。

▲斯く他の魔窟を逐はれた白首が、神明へ這入り込んで益々其の辣腕を揮ふので慶應や攻玉舍、慈惠院醫學校の生徒を始め、品川や洲崎通りに遊び飽きた連中がドシドシ這入り込むので一方ならぬ繁昌を來たし、中には十人近くの白首を置いて一廉の財産を造つた者も二三人はあるさうで、愈々益々大仕掛けに醜業を營まふとして居る、誠に之等學生の爲めに嘆かはしい次第ではあるまいか。

▲其處へ行くと早稻田や馬道あたりの署は大英斷があると云つても可なりで、殊に早稻田が僅々一週間近くの間にあの大魔窟を一掃した御手際は實に天晴れと申し上げよう。其神明と來たら前記の如く御話になつたものに非ず、白晝堂々と醜業を營んで居つて、未が曾つて處分したと云ふ事を聞いた事がない。警察は眠つて居るのか、淫賣婦が豪いのか、何としても、私達は困つたもので實に迷惑を感じます』とは神明附近の商家連が始終噂して居る言葉である。帝都樞要の地に、斯る魔窟の存在するは、市としての不名譽許りではなく、附近の學生連に取つて實に由々しき大問題である。早稻田の署長の樣な警察官は、他の區にはないのかと、近所の名譽職は痛歎して居ると云ふ。（中央新聞）

又々遊廓燒く

▲京都祇園の出火

三日午前三時京都祇園東松竹合資貸座敷永よし事森田民三郎方奥六疊の間より出火し、附近二十八戸と半燒三戸を出し、同四時半鎭火せり。同所は祇園に於ける新發展地にて、建築物は京都松竹合資會社の所有に屬し、燒失家屋は貸座敷殆ど全部を占め居れるが、火は頗る猛勢を極め、彌榮小學校裏に至り、南園小路より青柳小路迄南北に通ずる前記東松竹小路西松竹小路に燃え擴がり、永よしを始め花かの、吉野家、其他の貸座敷、西洋料理南洋軒等を燒盡し、損害約六萬五千圓なりと云ふ。場所柄といひ一時は非常の混雜を極めしが、幸に死傷者を出さざりし。失火の原因は取調べ中なり。（東京日々）

會長島田三郎氏、理事益富政助氏は來る十二月上旬下舘及水戸に於ける廓清演說會に出演の筈。理事益富政助氏は、本月十八日十九日秋田及能代に於て同地青年團の主催にて廓清演說會を開く筈。

會報



廓清會紀要

△秋孝大演說會の盛況聽衆堂

△に溢れ即時入會者百十五名

十月十六日午後六時、三田惟一館に於て秋季大演說會を開いた。法學士鈴木文治氏司會。

▲第一席益富政助氏　登壇、『公娼か私娼か』と題して、社會風敎の取締上公娼私娼の優劣論を試み、『今の人多くは云ふ公娼を廢せば私娼の蔓延增加を恐るべきものありと、然れどもこれ全然杞憂に過ぎず、論より證據早稻田大學附近に於ける淫賣征伐の結果を見よ即ち醜業婦をして跋扈せしむるとせしめざるとは、一に警察官の取締如何にあり、風紀警察にして、跋扈せしめざらんとせば、即ちその理想の如くなりしにあらずや。要するに私娼をして跋扈せしむるも警察官なり、たゞそれ跋扈せしめざるも警察官なり、警察官の意志如何によるのみ、と論じ、それより進んで公娼の弊害が如何に私娼よりも數等大なる事實大凡そ十箇條を列擧して聽衆をして肯く處あらしめ、

▲第二席成女高等女學校長宮田脩氏は『廢娼問題と婦人』と題し、早稻田の私娼征伐を近來の一大快擧なりと稱揚し、各學校の蜂起を促し、人道を解する者は男女共廢娼運動の爲に起べきであるが、假りに男子と女子と其性によりて此運動に對する分擔を定めたならば、凡そ次の三つに分つ事が出來やう、一は貸座敷業者に對する抑壓運動であつて之は男子のなすべきものである。第二は娼婦の救濟又は豫防運動、之は女性のなすべき運動である。第三は娼婦に近かんとする青年の取締であつて、これは男女の協力を要すとて、更に亞典婦人とヘキラに就て語り、日本の婦人にも何か缺陷のありはしないかを恐るゝ、近頃新しき女と稱する連中が青樓に遊んだといふ事は何たる矛盾であらうとて、婦人の眞實なる意味に於ける自覺を翼ひ。

▲第三席文學士三輪田元道氏は『娼と死の研究』と題し、娼と死の密接なる關係ある事を述べて反省を促し（別項論議欄參照）

▲第四席理事内ケ崎作三郎氏は『ジョセフイン、バットラー』と題し、早稻田問題より說き起し、過般の英國婦人參政權運動には十萬人の婦人が體伍を組んで市中を練り歩き、示威運動を試み、巡査は之に暴行を加ふるものなからんやう其行列を保護したといふ事より、早稻田の運動を擴充して廢娼運動も場合によりては一大示威運動を試むべしとて轉じてバットラー女史の壯烈なる廢娼運動を紹介し其靈感によりて我國にも幾多のバトラー夫人の出でん事を翹望し、…（前號バトラー傳參照）

▲第五席山室軍平氏　登壇『弱者の聲』と題し、監獄と遊廓とを比較し、其生活の寧ろ監獄以上に悲慘なるを說き、監獄には假出獄といふ樣なものもある、死に最近の監獄學では不定期刑とて改悛の情の認むべきものありさへすれば放免せしめ

るといふ様な學說が唱道されてゐる位だのに、一方では娼妓を出來るだけ長く引止めて置かうとする。怎うかして遊廓から出ると警察が手傳ふて引戻す、監獄では免囚保護事業といふ樣なものがあつて放免の一月も前から四人に逢はして身のふりかたをつけ、再び罪を犯さないやうにするが、遊廓ではなるたけ我々に面會させないやうにし、逃げ延びた者を搜索して再び醜業を强ゆるのである。自暴自棄となつて情死もせざるを得ないではないかとて、十數通の救を求めたる娼妓の手紙を朗讀して、慘憺たる彼等の生活と警察の態度と實例を擧げて詳にし、大に我等と共に起つて戰はん事を勸誘して立ろに百十五名の入會者を得た。

▲第六席副會長安部磯雄氏は『廢娼論に對する社會の誤解を辯ず』と題し、娼婦と下水とを比べて社會の暗い隅つこにあるべきものなりと說き。日本人は上流社會から公然之に接して耻ぢない、忠臣藏とか仙臺萩のやうなクラシックなドラマ劇を見ても、必ず女郎が出る。怎ういふ有樣で怎うして社會の風紀を取締る事が出來やう、學生だから品行を愼め、學生だから操を守れといふ、何故人間と學生を區別するかとて、更に公娼を廢止したら病毒が蔓延するといふ論者がある、乍併專門學者の言葉によると、檢黴制度は娼妓自身を保護する上には效力があるけれども、病毒の傳播を防止する上には寸效だもないのである。淺草の私娼が八割の罹病者だつたといふので驚いてゐるがそは肉眼での話で、梅毒の有無は顯微鏡を用ひて十時間を要するのである。それを一人前一分や二分で檢査するといふならそれは大した藪醫者である。京都大學の梅毒科長松浦博士は一瓶の昇汞水を以て太平洋の水を消毒せんとするものだと嘲はれたのではないか、之を警視廳が平氣でやつてゐるのは唯制度維持の口實としてゞある。まさかさう藪醫者ばかり揃つてもゐなからうと皮肉り、人道の上よりするも公衆衛生の上よりするも廢止の必要なるを論じ。最後に、

▲會長島田三郎氏 登壇『社會の整理』と題し、倫敦タイムスの通信員が、英邁なる君主を頂いて四十五年間に驚くべき發展をなしたる日本は、今や其絶頂にあつて大正以後の日本は下り坂であらうといふ電報を本國に送つた。タイムス紙は此觀察を否認してゐるけれども、我々日本人としては之は大に反省警戒を要する事であらうと思ふ。今日の日本は法律も、敎育も、軍備も極めて緻密に發達してゐる、娼妓の如きは明治五年の昔既に解放した筈である。然も救世軍を煩はさなければ廢業の出來ない現今の狀態は何を語つてゐるか、形具つて心之にそはざる證據ではあるまいか。羅馬の昔を見よ、ジャスチニアンコードは多年の丹精積り積つて完成されたのであるが、法律が出來てから却つて國運は傾いたではないか、タイムス通信員の觀察は決して輕々に看過すべきではない。外形の美と相俟つて內容を充實せしむる事が最も肝要である堅實にして溌剌たる生氣を藏しなければならぬ。而して男女の關係を正す事は卽ち內容充實の所以である。國運進展の所以であると說き十時半閉會、來會者無慮七百名潮の寄するが如く集り來り、忽ちにして堂に溢れ門を閉るの盛況を見た。

文　苑

劍

神戸　賀川豊彦

廢娼問題に叫び狂ひ、電車停留所の傍、銀行の赤煉瓦の建物の下、鐵の鎖に腰をかけて、雜誌の表紙に書付けたる歌。

心靈の自由のため、
我は拔く劍！
肉慾の羂、我は　斷つ！
吁、自由！

痛め！
白奴の首の、其の鎖！
人よ、聽け、人よ！
彼女が、冥府のうめき！

よし、我——
地獄の底に立ちて、
天國の天井
突拔くまで、背延びせん！
彼女　ひきあぐるため、
肉の　冥の深みより。

然して、猶、一絲だに、殘らば、
地に結ぶその絆、
我　苦笑つて　解かん、
人生の夢。
馬　！地球は　如斯て、
何時まで　迷ふものぞ！
劍は　渴く　群盲の血！
劍は　わななく　正義の戰！

姉と弟——廓の中にて——

東京市養育院巣鴨分院　緒方龍二

角刈りの一群が、
流れるやうに這入つて來た。
居ならびの衽襠は、
樣々に色を作して、
あわ立つやうに聲を上げた。
格子一重の内と外、
角刈頭とシャグマの髷と、
泥つく舌に言ひ濁らせて、
笑ひさゞめく……灯の匂ひ。
夜に迷ふ小鳥の如く、
たかり寄れる少年の群。
うるさし、むさし、とく去れよ、
廓は廣し、我等も行かん。

土色に赤く笑つた——
檻の中のうちかけは、
後姿に色を浴びせた、
少年の一人が應へた。
ふと見合す目と目。
たましひの窓、その瞳、
驚きと、喜びと、切なさと……。
四年となりぬ、
病きにこけた母上の、
背い頰には淚か幾筋
別れを惜んだその姉は、
都の伯父につれられて、
………。

「いとし娘の身の代で、
買ふた藥がきくものか、
娘の肉のさいなみに、
母の命も縮むぞえ。」
——母は死んだ。

「オフサ姉！」少年は叫んだ。
「まア此の乞食のヘンチキ小僧！」
格子の中の打かけは、
ツンと煙管を膝に立て、
火鉢に寄つて傍を向いた。
姉だ、姉だ、オフサ姉だ、
おれの姉やに違ひない。
——別れて四年にやまだならぬ、
おれの姉やだ、オフサ姉！
母のむくろを出す時よりか、
古い茅屋を出る時に、
ブチ(猫)に泣かれてつらかつた。
ぶらつき男に使はれても、
おれは姉やの弟だ。
いつそ二人か死んでたら。
母のよみぢも安かろに。
むごいくやみもしなかろに。
節操なんごゝ叫ぶは野暮と、
檻の中から笑つてゐるよ、
乞食小僧となり果てた、
おれはおれでもよいけれど、
たれが姉やを女郎にした。
此世に生ける人の子の、
夜に泣く鳥のものあはれ、
鐵は冷たき運命の名か
姉やもおれも人間だい。

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（大正元年十一月十五日納本）
（毎月一回十五日發行）